

平成29年村上市議会第1回定例会会議録(第2号)

○議事日程 第2号

平成29年2月22日(水曜日) 午前10時開議

第1 会議録署名議員の指名

第2 平成29年度村上市施政方針及び議第9号から議第19号までに対する代表質問
議第9号から議第19号まで委員会付託

○本日の会議に付した事件

議事日程に同じ

○出席議員(26名)

1番	小杉武仁君	2番	河村幸雄君
3番	本間善和君	4番	鈴木好彦君
5番	稲葉久美子君	6番	渡辺昌君
7番	尾形修平君	8番	板垣千代子君
9番	鈴木いせ子君	10番	本間清人君
11番	川村敏晴君	12番	小杉和也君
13番	姫路敏君	14番	竹内喜代嗣君
15番	平山耕君	16番	川崎健二君
17番	木村貞雄君	18番	小田信人君
19番	長谷川孝君	20番	小林重平君
21番	佐藤重陽君	22番	大滝国吉君
23番	大滝久志君	24番	山田勉君
25番	板垣一徳君	26番	三田敏秋君

○欠席議員(なし)

○地方自治法第121条の規定により出席した者

市長	高橋邦芳君
副市長	忠聡君
教育長	遠藤友春君
総務課長	佐藤憲昭君

財 政 課 長	板 垣	喜 美 男	君
政策推進課長	渡 辺	正 信	君
自治振興課長	川 崎	光 一	君
税 務 課 長	建 部	昌 文	君
市 民 課 長	尾 方	貞 一	君
環 境 課 長	中 山	明	君
保健医療課長	菅 原	順 子	君
介護高齢課長	富 樫	孝 平	君
福 祉 課 長	加 藤	良 成	君
農林水産課長	山 田	義 則	君
商工観光課長	竹 内	和 広	君
建 設 課 長	中 村	則 彦	君
都市計画課長	東 海 林	則 雄	君
下水道課長	早 川	明 男	君
水道局長	川 村	甚 一	君
会計管理者	中 村	る み 子	君
農業委員会	小 川	寛 一	君
事 務 局 長			
選管・監査			
	木 村	正 夫	君
事 務 局 長			
消 防 長	長	研 一	君
学校教育課長	遠 山	昭 一	君
生涯学習課長	田 嶋	雄 洋	君
荒川支所長	小 川		剛 君
神林支所長	鈴 木	芳 晴	君
朝日支所長	齋 藤	泰 輝	君
山北支所長	五 十 嵐	好 勝	君

○事務局職員出席者

事 務 局 長	田 邊	覚
事 務 局 次 長	小 林	政 一

係 長 鈴 木 涉

午前 9時59分 開議

○議長（三田敏秋君） ただいまの出席議員数は26名です。定足数に達しておりますので、これから本日の会議を開きます。

本日の会議は、お手元に配付の議事日程により議事を進めますので、よろしくご協力をお願いいたします。

日程第1 会議録署名議員の指名

○議長（三田敏秋君） 日程第1、会議録署名議員の指名を行います。

会議録署名議員は、会議規則の規定によって、9番、鈴木いせ子さん、21番、佐藤重陽君を指名します。ご了承願います。

日程第2 平成29年度村上市施政方針及び議第9号から議第19号までに対する代表質問

議第9号から議第19号まで委員会付託

○議長（三田敏秋君） 日程第2、これから平成29年度村上市施政方針及び議第9号から議第19号までの11議案に対する代表質問を行います。

代表質問は、配付してあります代表質問通告者一覧表の順に行います。

最初に、鷲ヶ巣会の代表質問を許します。

25番、板垣一徳君。（拍手）

○25番（板垣一徳君） 皆さん、おはようございます。新政村上と7人という同じ会派数ですが、このたびの代表質問には、鷲ヶ巣会が先にお許しをいただきまして質問することをご理解していただきたいと思います。

まず冒頭に、この平成29年度の予算編成に当たりまして、これ新潟日報の記事でありますけれども、一般会計の総額329億8,000万円で、16年度当初予算比11億9,000万円、3.7%増で、合併してから最大の予算と、こういふことで記載、報道をされております。私は、この予算を組み立てるに当たりまして、日夜努力しました各課長さん、そして市長、副市長、教育長、この三役の皆さん方に心から敬意と努力に感謝を申し上げます。この新聞見る限りでは、これは新潟県30の市町村ありますが、子育て支援とか経済あるいは空き家対策、大体似通ったようなところに重点を置いて予算を計上したというふうにとめております。特にこの村上市の東京五輪の正式種目になったスケートボードの選手育成を図る、仮称ではありますけれども、市のスケートパーク、この事業に取り組んだということは、極めて私は今後の村上市の繁栄につながっていくのであろうという期待をしております。まず、いろいろ考えられますけれども、やっぱり2020年の東京オリンピック・パラリンピックに向けてこの選手の強化をされる、これは全国的にも村上市の名を売る大きな機会と私は捉えておりますし、またさらには交流人口というものが大幅にふえてくるのではなかろうかという期待

もしております。さらに、この村上市のいわゆるスポーツ振興の役割も大きく果たしているのではなからうかと。また、このパークの中でオリンピックで優勝したり賞位になれば、大きな経済効果も出てくるというふうに認識しております、極めていい事業に市長は取り組んだなと、こう思っております。

そこで、市長にまずお伺いしますが、これがきのうの財政課長の説明にもありましたが、平成31年の春にはこのパークを利用を開始するというような、今のところは計画のようではありますが、この管理運営が今どのように市長として考えているのか。極めて重要な施設でありますので、考えありましたらお聞かせ願いたいと、こう思います。

○議長（三田敏秋君） 市長。

○市長（高橋邦芳君） 皆様おはようございます。それでは、お答えをさせていただきたいと思えますけれども、今議員から評価をいただいたように、しっかりと果たすべき役割を、確実にその効果を発出できるようにこの施設の利用については考えていきたいというふうに思っているのが1点でありますけれども、それにかかわりまず運営につきましては、スケートボード連盟の皆様方がこれまで今の旧施設でそれぞれ今まで積み上げてきたことの成果として、平野選手がソチオリンピックでシルバーメダリストに輝いたという、こういう実績があるわけでありますので、当然その方々との連携をまずしっかりと構築をしなければならないと思っております。

ただ、この施設につきましては、今議員ご指摘のとおり、今後の村上市の将来設計を考えたときの交流人口であるとか、例えば若い世代のスポーツに取り組む、そういうところからしっかりとした人間力をつくり上げていく、それはまさに我が村上市の次を担う世代、ここもしっかりと育て上げていかなければならないというふうに思っておりますので、そういった意味合いから現在村上市内に根づいております総合型のスポーツクラブでありますとか、またこれまで長くその歴史を重ねてこられました体育協会の皆様ですとか、そういう方々のお力も当然そこに入れていかなければ、手伝いをしていただかなければならないのだろうなというふうに思っておりますので、運営についてはそういう形で地域に根差した部分とオリンピック、世界を見据えるような、そういうスキームでいろいろなコーディネートをしていきたいと、今現状では考えております。

○議長（三田敏秋君） 板垣一徳君。

○25番（板垣一徳君） 今市長がおっしゃるように、これは世界を目指す子供あるいは選手、さらにはオリンピックを目指す選手を強化するわけですから、日本全国から幅広い範囲でやはりそういう人々をこの村上市に来ていただくということになれば、今おっしゃるようにこのスケートそのものにも還元がありますけれども、幅広い分野で活動できるような、そういう運営管理をしていただきたい、これはお願いをしておきたいと思えます。

もう一点、きのう財政課長が主要事業説明でもございました。これを建設するに当たりまして、RCのもので2階建てをつくるのだと。特にCLTのパネルと地域産材を活用して建築をしたい、

こういうことでした。まことに私は同感でありまして、このことについて市長、CLTパネルは村上市で買い入れることは不可能だと、つくるということは不可能であります。地域産材、これはやはりこの地域のいろいろなプレカットあるいは木材業、製材業の方々が村上市にもたくさんおりますので、地域の企業からこういう材料は仕入れるような、私ども山北地区のときはそういうような建築法でやってきた経過がありまして、この地域に経済を潤していただきたいという願いであります。市長の考えをお聞きしたい。

○議長（三田敏秋君） 市長。

○市長（高橋邦芳君） まさに同感であります。CLTにつきましては、残念ながらその技術的な工法によりまして、集合住宅のようなものと、かなり高層階まで国土交通省の示しましたガイドラインで建築できることになっておるわけでありまして、これは昨年からであります。ただ今回リニューアルを目指しているその構造が体育館的なものでありますので、大きなあのサイズの高さのものを空間としてつくり上げるときにはなかなか難しいということ、これ大臣認可になるというお話を私は聞いております。その関係で、ちょっとスケジュール感が東京オリパラに間に合いませんので、その辺のところはCLTをその施設の中にふんだんに使い込むことによって建屋全体に使えるという、建屋の躯体を支える構造体にはなりませんけれども、いろんな形でその技術を提供できるような仕組みをつくりたいというふうに考えております。

そのことによりまして、我が村上市を中心としたこの下越エリアは、新潟県における材の生産量としては非常に優良な地域であります。特に私どもは、県内で生産される材の約5割をここで作り込んでいるということもあるわけでありまして、この豊富な資源を活用し、越後杉ブランドというものをしっかりとやはりアピールをしていく、そういう大きな機会にもなると思いますので、そんなところをしっかりと取り組みたいと思います。ということは、いずれにしてもこの地域の材を使ってそういうものに具体的な形にしていくということで、これまでも駐輪場を含めてトイレ、学童保育所、市産材を使うのだということで公共施設については取り組んできておりますので、その部分については、このスケートパークの事業につきましても同様のスタンスで取り組みを進めたいというふうに考えております。

○議長（三田敏秋君） 板垣一徳君。

○25番（板垣一徳君） ぜひ地域経済になるように今後ご指導をしていただきたいと、こう願っております。

次に、山北地区でこのドリーム100プロジェクトというのは、課長さん、市長さんもわかるでしょう。これは、山北地区の山北地区まちづくり協議会、山北商工会がお金を出して、まちづくり委員会には市から出ているわけですが、そういう財源をもとにして1年をかけてドリーム100、これは夢を100集めようと。ところが、今お話を聞いていますと160も集まっているようであります。3月の中旬までまとまるという話であります。ぜひこれ課長も知っていると思います、担当課長。ぜ

ひこれ資料を必ず課長さん、市長さん方には届くはずになっていると聞きますので、これがまとまった時点で即できるもの、あるいは教育に値するアイデアといえますか夢のものがたくさん出てこようかと思えます。それで、市長にこれも聞きたいのですが、ぜひこれを協力していただきたいということに市長はどういうふうを考えておりますか。

○議長（三田敏秋君） 市長。

○市長（高橋邦芳君） 合併後市民協働のまちづくりを進めながら、現在17のまちづくり協議会で、みずからがみずから住むそのふるさとをしっかりと作り込むという作業に取り組んでいただいております。大いなる成果を上げているなというふうに思っております。また、それ以前から山北地区におきましては、いろいろなカテゴリーでそういう作業を進められてきたというのを私も承知をしております。それがしっかりとベースにあって、今ドリーム100プロジェクトという形のものづくり込みがされているのだらうというふうに思っております。

私も、いろんな場面でその地域の皆様方、各世代の方また各産業の方、せんだっては寝屋漁協の若手の漁師の皆さんとちょっと話す機会があったりもしたのですけれども、そんな中でいろんな分野でいろんな課題があります。そのことを持ち寄って将来に向けての夢を語り合っている、それがそのドリーム100プロジェクトなのだらうというふうに思っております。ですから、そのところで当然これは、議員ご承知のとおり今第2次の総合計画をスタートさせるわけでありましてけれども、時間のかかるもの、短期的、中期的また将来にわたって長期的というようないろんなものがあると思います。そこに当てはめたときに、その事業がここはこういう形で使えるよね、これは絶対効果があらわれるよねというところをまとめ上げていただきましたその皆様方のご意見も十分お聞きをしながら、具体化できるものについては速やかにレスポンスよく対応していきたいというふうに思っております。

○議長（三田敏秋君） 板垣一徳君。

○25番（板垣一徳君） これもお願いをしておきます。よろしく申し上げます。

そこで、私この次に質問するのは、買い物についてのことで質問したいのですが、若干今山北地区でいろいろな調査、アンケートをやった経過を皆さんにご報告してから質問したいと、こう思います。今言いましたドリーム100でも、この買い物に困っているというのは20代、30代、40代の方々が2番目に多数なのです。そこで、私ども集落、大毎の集落住民が10歳から80歳まで8段階に分けてアンケート調査を実施しました。これは、いわゆる県の補助を利用しまして、項目がたくさんありますが、これを昨年実施したわけで、35万円も県から、これはこの前表彰をいただきました都岐沙羅パートナーズセンターのこの斎藤さんという方のお力もいただきながら、それでそこを通過して予算も35万円いただいてした結果が出たのです。まさにこの買い物なのです。10代、20代、30代、40代が1番が全部買い物に困っているというところに丸がついている。これは、後で担当課長に私のほうでこのアンケートの資料は上げますので、今後の参考にさせていただきたいと、

こう思います。

そこで、山北地区ではさんぽくお届け電話帳というものを今作成して、これを配布しました。1,000部刷った。本来全部配れば2,300ぐらいいるのですが、1,000部を配りまして、この中にこのように19の商店名が書かれております。これは、配達するという事です。食べに行くのでは、買いに行くのではないのだ。ただ、これを見ているこの方々にお話を聞きますと、1,000円のもの30キロも配達するわけにはいきませんよね。ですから、3,000円のものであれば地域指定がちょっと幅広くなります。1,000円未満であると、大体集落地内ぐらい。いわゆる旧村地内で黒川俣だか大川谷くらい地内までしかできないというわけです。そうしますと、なかなか奥地の方々にはこのさんぽくお届け電話帳は余りお役に立たないということになるわけです。それで、これは商工会が主催になりまして、社会福祉協議会も参画して、これは村上市で初めてでしょう。これは極めていいのですが、まだこれで買い物難民が解決するという策ではないというふうに私どもも受けとめていますし、ただこういうものができたということだけは、課長さん方も覚えていただきたいと、こう思います。

そこで、先ほど大毎のこのアンケート調査をやった結果、そういう答えが1番になりましたので、実は大毎の中の民生委員をされております女性の方が、私がお手伝いしましょうということで、自分みずから区長さんに名乗り出まして、そして12月にそういう人々に名前、家庭の電話番号、携帯番号、そういうことを何でもお届けしますよと。ところが、12月のとき160件の電話が殺到しました。まさにパニック状態なのです。しかも、ボランティアでやるわけですから、これがこの人が委員をやっていただければ、私ども集落は買い物難民は出ないわけでありませぬけれども、年齢もありますし、また体調崩すこともございます。そういう観点から、これを担当課長にこの買い物難民の担当課長、まずこういうことで私はこの問題は山北地区大毎だけではないと思っているわけです。そういうことから考えますと、現在課内でこの買い物について、今始まった問題ではありません。これ一般質問でもたくさん質問されています。この課内でこういうことを今の現状でこうしたらいいとか、あるいはアイデアを持っているなら教えていただきたい。

○議長（三田敏秋君） 自治振興課長。

○自治振興課長（川崎光一君） 買い物難民対策でございますが、新年度に地域おこし協力隊を山北地区の買い物難民対策として1人採用の予定でございます。

その中で、今議員おっしゃいましたさんぽくお届け電話帳ですか、その買い物帳の配達範囲外、それらの配達を構築できないかということで、そういった事業に当たってもらう予定で今配置を予定しております。

○議長（三田敏秋君） 板垣一徳君。

○25番（板垣一徳君） その話は課長、私も薄々お聞きしております。

市長、そういう状況で、市長はいわゆるこの地域おこし協力隊を利用しようと、こういうことな

のです。まことにいい案であると思いますが、さらにこのことはやはり真剣に取り組んでもらいたいということで、これは時間がだんだんなくなるので、このいわゆる地域おこし隊につないでいきたいと思いますが、ことし何人、今私が聞いているところでは山北地区に2人、朝日地区1人、神林地区1人というふうにお聞きしていますが、課長その内容をちょっと教えていただけますか。

○議長（三田敏秋君） 自治振興課長。

○自治振興課長（川崎光一君） 現在配置しておりますのは、山北地区に2名、それから朝日地区に2名でございますが、山北地区のほうに1名退任しております、今現在3名でございます。

○議長（三田敏秋君） 板垣一徳君。

○25番（板垣一徳君） 3名しか募集しないということなのですか。

○議長（三田敏秋君） 自治振興課長。

○自治振興課長（川崎光一君） 平成29年度につきましては、山北地区に2名、1つは伝統的工芸品、羽越しな布の継承ということで1名、それから今お話ししました買い物困難者対策として1名、それから朝日地区のほうで繭の継承のほうで1名です、シルクフラワー。それから、もう一人が神林地区、ホテルの里づくりということで、河内集落のほうに4名配置の予定でございます。

○議長（三田敏秋君） 板垣一徳君。

○25番（板垣一徳君） では課長、今回応募している数教えていただけます、総人数でいいですから。どことどことどこで、分けしないとうまくないですね。しな織りであればしな織りは何名、今1名募集するというので、何名ずつ応募していますか。

○議長（三田敏秋君） 自治振興課長。

○自治振興課長（川崎光一君） 募集は今各地区1名ずつ、合計4名でございます。

○25番（板垣一徳君） いや、そうではなくて応募している人。

○自治振興課長（川崎光一君） 応募者につきましては、しな布のほうに5名応募ありました。それから、買い物困難者対策のほうに1名、それから朝日のシルクフラワーのほうに2名、それから神林河内集落のほうに1名、合計9名の応募がございました。

○議長（三田敏秋君） 板垣一徳君。

○25番（板垣一徳君） これ市長、地域おこし協力隊は、集落支援員と少しお金が違いますが、大体似たり寄ったりの仕事をするわけです。県とはまた別なのだ、仕事は。集落支援員とは違いますが、地域で活動することは間違いありません。

それで、私の考えなのですが、今こうして山北へ6名の方が2名採るところに応募をしていると、こういう形になりますよね。朝日は、1人採るのに2名応募していますよと。神林は1名だから、1名ですからこの人採るのでしょう。私は、今新潟県で長岡市、ああいう大きな市でもこの地域おこし協力隊、集落支援員を利用してどんどん募集しているのです。まず、経費が国費でしょう、これ。そして、私どもこの山村地域に来て自分たちが活動したいと、こういう条件をもとに来るわけ

です。ですから、私は面接は必要だと思います。しかし、余りオープニングにこだわらず、ことしの1月に山北の人1人やめましたよね。そういうこともあるわけですから面接は必要ですが、もっと応募したら、これから募集していくという考えは市長持っておりませんか。

○議長（三田敏秋君） 市長。

○市長（高橋邦芳君） 実は、その議論はこの制度設計をするとき、また応募したその結果を見て庁内ではしっかり議論しています。せっかく村上市をチョイスというか選択をしていただいた方々、その方々の思いをしっかりと具体的な形にしていくということも必要だ。我々は、当然人口が減少している社会の中に、そこを何とかしようとしているわけでありますから、そういった意味合いでは非常にいい実は制度だなというふうに思っておりますので、今後その部分について、今回はそういう形の仕掛けの中で進めさせていただきますけれども、しっかりと議論をして、その方々の思いが必ずや村上市に具体的にあらわれるような仕組みづくりというのも大切だよという議論をしておりますので、それを形にしていきたいと思っております。

○議長（三田敏秋君） 板垣一徳君。

○25番（板垣一徳君） それひとつこれからも早急に検討して、地域の方でも必要だか必要でないかということも調査しなければならぬ。いろいろ行政のほうで骨を折って、もう一点私はこの地域おこし協力隊が夫婦の方も募集してみたらどうかと思っているのです。

現実的に、これは地域おこし協力隊が考案されて、阿賀町の三川地域で夫婦連れが地域おこし協力隊になりまして、いわゆる津川地域のパンとか焼き菓子あるいは豆腐のうまい味のある豆腐をつくりまして、特産品の逸品をつくり上げたというのが新聞にこれ載ったのです。これいつの新聞かちょっと忘れ……ごく最近です。私は市長、こういうものを応募の一つとして、夫婦で来れば地域に来て極めていいですよ。奥さんは奥さんの友達もできるでしょうし、あるいはお父さんはお父さんの友達もできてくるということになれば、極めて私はそういう応募方法もいいのではないかと、こんな気がするが、市長はどう思いますか。

○議長（三田敏秋君） 市長。

○市長（高橋邦芳君） 先ほど議員お触れになりましたとおり、地域おこし協力隊と集落支援員、そういう制度そのものも違いますし、本来の役割が違う。ただ、地元にいる我々からしてみれば、そういうよそから入ってきていただいて、その方の力を地域に存分に発揮をしてもらおうということには変わらないわけであります。

その一つの手法としてご夫婦で来ていただくというのは、地域おこし協力隊の募集要項、これは研究をさせていただきたいと思っておりますけれども、それだけでなく、例えば都会にいらっしゃった方が地方に来て、そこでみずからの手でかまどをつくって何かを提供したいというようなこと、そういうニーズも実はあるものですから、そんなところを来やすい環境、選択しやすいそういう支援策を設けることによって、可能性としては十分あると思っておりますので、地域おこし協力隊の応募のみ

にこだわらずに、少し研究をさせていただきたいというふうに思います。

○議長（三田敏秋君） 板垣一徳君。

○25番（板垣一徳君） これもひとつ市長、ただお願いしますが、真剣にお願いしているのです。

それから次に、空き家対策、これは極めて村上市は今いろいろな方々がこれはあくまでも予想、自分の考えで1,700軒くらいはあるのではなからうかと、こういうようなことが先に進んでおります。しかし、よくこれ調べて見ると、もっと私は出ると見ているのです。それで、担当課長、これも市民課ですね。この空き家を今まだ1,700というのは架空なものなのです。これをまず調査しなければ、手の打ちようがないでしょう。いわゆる解体をしていただくにも危険が来ても、それから空き家バンクで再利用するにしても、あるいはリフォームして人に販売するにも、仕分けがつかなければこれ手つけられませんか。課長、この調査いつやるのですか。

○議長（三田敏秋君） 市民課長。

○市民課長（尾方貞一君） この調査につきましては、来年度に実施したいということをお願いしているところでございます。

○議長（三田敏秋君） 板垣一徳君。

○25番（板垣一徳君） それこそ今回の予算の中でこのことを調査すると、こういうことですね。それでいいのですね。

○議長（三田敏秋君） 市民課長。

○市民課長（尾方貞一君） 今回お願いしている予算の中で来年度の調査を実施していきたいというふうに考えております。

○議長（三田敏秋君） 板垣一徳君。

○25番（板垣一徳君） これを分類するのにどういう区分けをするかということが私は極めて重要だと思っているのです。これは、あくまでも新聞ですからあれですけども、この新聞は燕市の新聞であります。これは去年の新聞ですから古い話ではありますが、やはり空き家対策に力を入れて、空き家をもうどんどんなくするというようなことが新聞に大々的に載っています。

それで、もう燕の場合はまず発生を抑制するということが基本だと思いますよね、これは市としては、それから、この空き家になったものを適正に管理する、それもまた必要だと思うのです。管理しなければだんだん、だんだんだめになっていく。どんどんだめになりますから、空き家は。それと、空き家を活用する、いわゆるこの空き家バンク、こういうものをどんどん。それから、もう使い道にならない、これはだめだと。危険があって、隣の人でも、将来でもこのリフォームするにもお金がかかるというようなものの分類がたくさん分類すればするほどこの管理するに私はいいと思うのですが、今課長が考えているその調査のやり方というものがもし説明できたらちょっとだけ説明していただけますか。

○議長（三田敏秋君） 市民課長。

○市民課長（尾方貞一君） 調査の分類ということでございますが、大まかに申し上げまして、空き家がそのまま使用できる状態であるか、あるいは修繕すれば使用できるか、それからもう使えなくて解体して更地にすれば、その土地が売却できる状態になるのか、そして傷みが激しくてもうどうにもならないような、解体よりなくて土地の活用も難しいというような、そういった分類を考えております。

○議長（三田敏秋君） 板垣一徳君。

○25番（板垣一徳君） 私も、全く課長と同じようなことを考えているのですが、まずこれを調べるには市役所だけ、市の職員だけではなかなか難しいですよ。宅建業者も、使われるか使われないかという判断、あるいは個人の持ち主の許可、そして地域の区長さん、総代さん、そういう方々の協力なくしてこれはなかなかうまくいかないと思います。ぜひこれをことし平成29年度中に、早い時期にこれを予算が今成立するわけですから、まとめて空き家バンクのこのいわゆる再利用、あるいは危険の取り壊しというものを積極的にやっていただきたいと思いますが、市長どうですか。

○議長（三田敏秋君） 市長。

○市長（高橋邦芳君） 議員ご指摘のとおり、まさにその部分がうちも非常に悩ましい部分だということで捉えておまして、今ご指摘のとおり行政がその建屋の評価をするということは、ほとんど不可能だというふうに思っております。ですから、専門的な知見を活用するということで、地元にある宅建事業者さんを中心としたそういう集合体のところに、当然お金を払いながら調査してもらおう。彼らは、まさにそのことをなりわいにしているわけでありますから、これは売れるな、これは所有者にとってもメリットがあるし、購入された方にもメリットあるし、市のその建物としての価値もこれから続くねということを見きわめることをお仕事にされているわけでありますから、その方々と早速新年度早々にそのスキームで物事をご依頼を申し上げながら進めていきたいというふうに思っております。

○議長（三田敏秋君） 板垣一徳君。

○25番（板垣一徳君） しっかりとよろしくお願ひしたいと思います。

次に、簡易水道と下水道について、これ担当課長、今旧山北町が過疎債、辺地債というものを利用しまして、早い時期に簡水はやっておりました。それで、もう長いものは相当年数になっていきますよね。それで、この調査も、聞くところによりますと何かやるような話ありますが、どういう今計画になっているのですか。

○議長（三田敏秋君） 水道局長。

○水道局長（川村甚一君） 直接に管であるとか施設のみの調査ではございませんで、昨年から3年間をかけまして簡易水道事業を公営企業会計に移行していくというふうな計画でございます。その中で、資産の台帳が残念ながら簡易水道については整備されてございませんので、整備をしていく。そのために、詳細な調査をしていくということでございます。

○議長（三田敏秋君） 板垣一徳君。

○25番（板垣一徳君） それは、そうすると私の質問とはちょっと違う方向でありまして、私は老朽化したこの施設、下水道もちょっと入る様な気しますが、簡水も都会でも大変な問題を起こしているのだ、事故を起こして。

それで、この旧山北町の簡水を見ますと、早いので昭和34年です。これ約9,000メートル管が布設されています。昭和42年、昭和43、昭和46年、この段階のとき入れますと、もう6万メートルぐらいです。しかも、これ昭和34年となりますと、58年経過しているのです。さらに、これ八幡地区昭和42年というやつは50年です。耐用年数は私はわかりませんが、この耐用年数は課長あるのですか。この簡水の管の耐用年数というのは、国で定められていますか。

○議長（三田敏秋君） 水道局長。

○水道局長（川村甚一君） 水道の管路の法定の耐用年数でございますけれども、これは簡易水道、上水道に変わりませず、管種一律に40年でございます。

○議長（三田敏秋君） 板垣一徳君。

○25番（板垣一徳君） そうすると、今このように6万メートル、7万メートルは、もう期間がすぐ来ているのです。これは、私の考えとしては一挙にできませんから、財政があれば、ですから、このことも今調査をする際、しっかりといつつあったか。資料はあるでしょう、支所へ行けば。そして、どういう状況で今まで修理をしたのか、そういうことも含めてしっかりこの調査をする。調査をして、今私が言うようないわゆる耐用年数が過ぎて危険性のあるというのは、もう計画で5年後にはここらは修理しましょうと、入れかえましょうと、そういうような計画を立てていただきたいと思うのですが、課長から聞きます。

○議長（三田敏秋君） 水道局長。

○水道局長（川村甚一君） 議員おっしゃるとおりでございます、仮に全管路をこの法定年数40年で割っていきますと、1年に全管路の2.5%の延長を改良していかなければならないと。一律にはそうなりますけれども、これらただいま議員おっしゃられましたとおり、設置がずっと早い時期であっても、改良を途中で加えてあったり、そういう詳細なところを調査をいたします。その上で緊急性の高いところ、あるいは管路でも弱い管、例でございますが、石綿管等につきましても、同じようなことでこれまでやってきてございます。大分ご理解をいただきまして、進捗もいたしておりますので、同じような考え方でやっていきたいと思っております。

○議長（三田敏秋君） 板垣一徳君。

○25番（板垣一徳君） 課長がことし、来年限り、財産的な面と今言うこの老朽管の件と調査をするということですので、私の言うようにやはり年次計画を立てなければ、この次の質問そういうことなのですが、一気にできませんので、だからそういうことをぜひやっていただきたいのですが、市長の考えどうでしょう。

○議長（三田敏秋君） 市長。

○市長（高橋邦芳君） 一番最初の布設が昭和34年ということで、私が生まれた年でありますので、58年たつのだなというふうに、今相当な期間そのままあるなということで感じたわけでありましてけれども、いずれにしましても布設の時期がずれているものについては、当然老朽化またその環境の変化に伴っているいろいろな形でダメージを受けているということはあると思います。40年の法定の耐用年数を超えているということでもありますので、しっかりとこの資産台帳の調査を踏まえて、年次的にその改修については計画を立てていきたいというふうに思っております。

○議長（三田敏秋君） 板垣一徳君。

○25番（板垣一徳君） では、よろしくをお願いします。

次に移り、林道、農道について農林水産課長、相当のこれ延長あるのです。しかも、これは昭和の初期からつくって林道はいます。農道というのは、基盤整備が始めてからできていますから、そう延長もいっぱいありませんが、林道はこれは総延長になると32万メートルもあるのです。その中に、橋梁です。たくさんあると思うのです。特に旧山北町の場合は市の林道、代行ではなくて。代行は、新しい時代の仕事ですから、そう橋梁は腐ってはいないと思いますが、町でつくった林道は、もう橋梁、橋のやつもあるかどうか私はわかりませんが、コンクリートがこの昭和30年代の海の砂〔質問終了時間10分前の予告ブザーあり〕海の砂利を使ったセメントなのです。ですから、極めてこの鉄筋とかあれには悪いのです。それで、この今ことについて、これも調査をしていただきたいと思いますが、課長はどういう考え持っていますか。

○議長（三田敏秋君） 農林水産課長。

○農林水産課長（山田義則君） 林道の橋梁の調査につきましては、平成27年度から平成31年度にかけて全て実施することとしております。

○議長（三田敏秋君） 板垣一徳君。

○25番（板垣一徳君） 今平成29年ですから、もう2年もかかるわけです。なるべく早い時期にして、やはり調査をよく検討して、これも長期計画を立てないと、橋梁1つつくるに簡単な金ではできませんので、これもひとつやっていただきたいと思いますが、市長の考えどうですか。

○議長（三田敏秋君） 市長。

○市長（高橋邦芳君） 社会資本の整備部分については、今老朽化対策また長寿命化対策ということで、林道にかかる橋のみならず市道含めているんなところでそういうものがあります。それぞれ法にのっとって確実に調査をしていきます。

いろいろな形でそれを、一気ににはできないわけありますので、やはり年次計画を立てながらしっかりと優先順位をつけて必要なところ、危険の大きなところからしっかりと手当てをしていくというふうにこれからも取り組みを進めたいと思っております。

○議長（三田敏秋君） 板垣一徳君。

○25番（板垣一徳君） 市長、しっかりと頼みます。

それで、次に森林、林業について質問したいと思いますが、昨年この新潟北部地域林業振興協議会が朝日支所内にありますが、この活動は極めて村上市全体の林業の活性化あるいは雇用に私は今活動して役立っているというふうにとめていて、実はことしに入ってから旧山北町での森林組合の若い10代の方々が意見発表をして、講演をしておられるようでありまして、また昨年8月にいろんな林業経験をやった結果、私ども旧山北町にあります村上市森林組合にも雇用が生まれたというふうにお聞きしまして、極めて私としては喜んでいる所存でございます。それで、この施政方針の中でも、市長は森林環境税ということをやはり進めることが極めて大切というようなことをきのうも施政方針でおっしゃっていましたが、そこで市長にまず言っている、これはお願いです。質問ではありません。実は、議員の皆さんにも資料も配付していますが、ことしの12月の国の与党の税調によりまして、この森林環境税の財源が結論を得るところに今会議で向かっているわけですから、私どもは県、それから市長会、新潟県です。市長も、私と一緒にこの活動をしていますから、私より詳しいでしょう。ですから、この新潟県の20の市長、今会長さんが燕だか……

〔「見附の市長」と呼ぶ者あり〕

○25番（板垣一徳君） 見附だね。見附の市長さんが今度なったというふうにお聞きしています。ぜひ会長さんとも相談をしながら、市長の皆さん方にこの12月の税調に向けて市長からPRと、そしてこの森林環境税の必要性というものを伝えて仲間づくりをしていただきたい。3月16日に新潟県知事の米山知事さんと、私どもは県の環境税には触れませんが〔質問終了時間5分前の予告ブザーあり〕国の環境税について知事として一層の知事会で発言をしていただきたいというお願いに今コンタクトをとっておりまして、実現をする可能性が出てきております。

そこで、これは市長にお願いです。林業の成長化でモデル地区をこれ今林野庁が一生懸命やっているということなのです。それで、このモデル地区というのは、やはり市長もよく勉強しなければ、簡単に手を挙げて私もなんていうわけにいきませんので、このことは時間もだんだん、だんだんなくなってくるので、市長、林野庁あるいは市長も東京に行くことがたくさんあるわけですから、そういう際にこの林業成長産業化モデル地区というのを日本の国土の中に今何力所かつくりたいということで、早いところはもうできているそうでありましてけれども、そういうところにそれを勉強をして、状況もつかんで、そして手を挙げていろいろな事業に取り組むのもこれから必要なのかなと、こう思っていますが、これも市長どうですか。

○議長（三田敏秋君） 市長。

○市長（高橋邦芳君） 成長産業化に資するためには、まさにその部分が必要だなというふうに思っております。

残念ながら、先ほどのCLTの部分についても、まだ我が県を中心としたエリアにはないという状況がありますので、これも一つの可能性なのだろうと思いますので、そんなところをトータルに

考えながら、少しそこのところは研究をさせていただきたいと思いますし、でき得るならばしっかり勉強せいということでもありますので、そうなのですけれども、可能性があるものについては、積極的にやはり手を挙げていきたいなというふうに思っております。

○議長（三田敏秋君） 板垣一徳君。

○25番（板垣一徳君） それもよろしくをお願いします。

もう一点、学校教育課長をお願いします。今回の予算に9校の改修に2,387万円のついでありますが、私が聞きたいのは、洋式トイレのいわゆる取り付けのことなのです。これは、つい最近の11月の新聞ですが、全国的にまだ40%しか行っていないのです。しかし、今家庭でも子供たちが洋式でないと、なかなか都会から来た子供もその用を足せないということもありまして、どこの家庭も洋式に変わってきています。そういうことで、そういう子供が学校へ行っても、その洋式がないと困るわけです。ですから、普及にこの2,387万円が少しでも役に立つのか、改修になるのかどうか、それ端にお答え願えますか。

○議長（三田敏秋君） 学校教育課長。

○学校教育課長（遠山昭一君） 主要事業の中にも盛り込んでおりますけれども、拡充ということで、小中学校のトイレの改修につきましては1,100万円をお願いしております。

これによりまして、なかなかパーセンテージ的には5%程度の上昇より行きませんが、70%を目指して、今現在約50%近いですので、進めたいと思っています。

○議長（三田敏秋君） 板垣一徳君。

○25番（板垣一徳君） 時間がなくなったので、あれですが、これは万が一大规模災害が起きたとき、学校というのは避難所になるのです。ですから、そういうことも含めてやっぱり私は洋式トイレを早期にやるべきだと考えていますから、これご要望でよろしゅうございますが、よろしくお願いたいと、こう思います。

終わりになりますけれども、この答弁をされる課長さんがことして、3月いっぱい退職される方が8人おられるそうであります。本当に長い間いろいろこの市の発展、また私ども議会の皆さん方に丁寧なご説明いただきましたことに、驚ヶ巢会から厚く御礼を申し上げたいと思いますし、これからもさらに今まで学んだ知識とこの能力を地域で、そして村上市民の安心、安全のために一層のご尽力を賜りますよう私からお願いを申し上げまして、私の代表質問を終わらせていただきます。大変ありがとうございました。〔質問時間終了のブザーあり〕（拍手）

○議長（三田敏秋君） これで驚ヶ巢会の代表質問を終わります。

午前11時5分まで休憩いたします。

午前10時53分 休憩

午前11時04分 開議

○議長（三田敏秋君） 休憩前に引き続き会議を再開いたします。

水道局長の発言

○議長（三田敏秋君） ここで水道局長から発言を求められておりますので、これを許します。

水道局長。

○水道局長（川村甚一君） 先ほど板垣議員からのご質問に対しまして、簡易水道の施設、管路施設等の整備につきまして追加して答弁を申し上げたいと思いますが、特に山北地区等におきましては北中、大毎、大沢地区の統合事業を筆頭に老朽化した施設の改修、それから石綿コンクリート管の改修とこれまでも計画的に行わせていただいておりますので、今後もまた詳細な調査の上、重ねて進めていきたいということでございます。

よろしくお願いたします。

○議長（三田敏秋君） ご了承願います。

○議長（三田敏秋君） 次に、新政村上の代表質問を許します。

19番、長谷川孝君。（拍手）

○19番（長谷川 孝君） おはようございます。新政村上を代表いたしまして、代表質問を行います。平成29年度の村上市施政方針に沿ってやっていきますので、よろしくお願いたします。

まず初めに、1ページのはじめにの部分からお聞きいたします。ここの中の最初のところに、村上市総合計画が一番最初に載っております。村上市総合計画は、平成27年度から平成31年度の5年間、人口減少の緩和等の政策として非常に大きい位置づけをもって村上市は平成27年から実施したわけなのですが、約2年間たちました。ここの中で、今までやってきた中である程度その成果というのか、そういうのを感じられた部分がありましたらお聞きしたいのですけれども。

○議長（三田敏秋君） 市長。

○市長（高橋邦芳君） 平成27年12月に人口ビジョンに基づいて総合戦略打たせていただきました。その結果、やはり村上市が持っているいろいろな材、要するに農林水産物も含めてでありますけれども、人材もそうであります。伝統とか歴史とか、そういうものがやっぱり非常にポテンシャル高いなということがいろいろな結果を見るにつけて明らかになってきているということ、それと私自身がそれを確信したということでもあります。それをもっているんな分野についてのアプローチをしたことによって、少なからず産業の刺激、各市場経済の刺激につなげることができたかなというふうに思っております。

ただ1点、人口減少はなかなかとまりません。とまらないので、非常に悩むのですけれども、ただこの人口が減少する社会全体の構造の中で、ではどういうふうなまちづくりをこれから目指していけばいいのかなということを新たに一つの道筋として見出すことが少なからずできたのかなとい

うふうにも逆に思っております。その結果がこの平成29年度以降の第2次の総合計画であり、平成29年度の当初予算につながったということで、そういう意味ではトータルで大きな成果を上げたのかなというふうな私自身は評価をしております。

○議長（三田敏秋君） 長谷川孝君。

○19番（長谷川 孝君） もし補足で商工観光課長何かありましたら教えてください。ないですか。

○議長（三田敏秋君） 商工観光課長。

○商工観光課長（竹内和広君） 補足ということですので、今市長答弁にございましたように、明らかに一例を挙げますと産業支援プログラムでも、過去7年間の補助制度で全部で64件ぐらいの実は申請だったのですが、この1年だけで63件ぐらいもう申請いただいていますので、市長が言いました市場経済の活性化に向けては、着実に動き出しているという感覚を持っております。

○議長（三田敏秋君） 長谷川孝君。

○19番（長谷川 孝君） 平成31年までの数値目標もきちんとあるわけですので、それに沿って頑張っていたきたいというふうに思います。

次に、第2次総合計画のことについてちょっとお伺いしたいのですけれども、第1次総合計画の将来像というのは、元気“eまち”村上市ということです。それを加味した中で、第2次総合計画は、やさしさと輝きに満ちた笑顔のまち村上ということになっております。特に私は、市長が強調しておりますその笑顔という部分が非常に大きい意味があるのではないかというふうに理解しているのですけれども、特に現在その核家族化とか個人というのは、個が重視される中でまちづくり協議会とかそういうような中で地域のコミュニティとかそういうものの醸成を図っていくということで、今一生懸命に各まちづくり協議会が努力しているのですけれども、その中で市長が笑顔のまち、ひとりひとりの幸せが実感できる村上市になりたいという、その思いを笑顔という部分で託したというのはどういう形なのかということをお伺いしたいというふうに思います。

○議長（三田敏秋君） 市長。

○市長（高橋邦芳君） 人と人のつながり、またそれは地域のコミュニティもそうですし、全体としての村上市のイメージにもつながると思うのですけれども、やっぱり全て信頼関係に基づくコミュニケーション、これに基づくものだと思っております。

そのときに、みけんにしわ寄せて議論することもあるのだらうと思っておりますけれども、やはり笑顔でコミュニケーションをとっていくということ、この持つ力というのが多分非常に大きいのだらうなというふうに思っております。人が自然と笑顔になったり、生活をしている中で常に笑顔があふれているという、そういう環境というのは、やはりストレスが少ない、そういう社会なのだらうと思っております。いろいろ我々は課題持っていますから、その課題を一つ一つ取り除くことによって、少しずつその笑顔の質を上げていくということ、そういった意味で非常に誰でもわかる言葉なのでありますけれども、その笑顔という一つの単語の持つ力というのは非常に大きいなど。また、その奥

深さというのですか、そういうものもしっかりと見据えながら、そういう一つの言葉、みんなが、誰でもわかる言葉に私は織り込んだというふうに思っております。

○議長（三田敏秋君） 長谷川孝君。

○19番（長谷川 孝君） わかりました。

次に、その下の部分で厚生連、それからスケートボード等に関してちょっとお聞きします。特に日本海沿岸東北自動車道の本体工事が着工に入るということで、約40億円ぐらいですか、今回予算ついて。それで、大手と、それから地元にも会社のある企業、名前ちょっと言わないでおきますので、あれですけれども、このジョイントみたいな形で大きいところが2つやるということになりました。それで、建設業関係の方たちは、実際その地元企業としての貢献はどののだというふうに、私もあるものなのかということで聞いたところ、なかなか大手が技術が日本的にもう一番進んでいるようなところなので、余りないかもしれないなというふうなことを言っていたので、市長にはせつかく1,600億円ぐらいの総工事費になるわけですので、ぜひともその地元の企業に少しでも貢献できるような形をとっていただきたいと思うのですが、そのようなことをお願いしてほしいと思いますが、その辺に関してどうでしょうか。

○議長（三田敏秋君） 市長。

○市長（高橋邦芳君） ご指摘のとおり、いよいよ日東道、日沿道でありますけれども、本体工事に着工いたします。これは、やはり日沿道をしっかりと延ばしてつないでいくということがまず第1、大切なことでありまして、加えてそれに伴う事業がしっかりとこの地域の経済にも影響、波及を及ぼすということも大切なわけであります。

今回新潟国道事務所を中心として、管理のほうは羽越河川国道事務所になりますが、これまで度重なる回数、地元業者を入れてくれということをお願いをしてきました。そんな形で、少なからず北陸地方整備局、本局も含めてそんな地元の意向は十二分酌んできていると思っております。ただ、それが具体的な事業につながっていくようにこれからも取り組みを進めたいと思っておりますが、地元にある事業者さんが幾つかその関連の事業の仕事についても落札をしているというお話も聞いておりますので、少なからずそういう意味での配慮はいただいているのかなというふうに思っております。

○議長（三田敏秋君） 長谷川孝君。

○19番（長谷川 孝君） よろしく申し上げます。

次に、厚生連の村上総合病院のアクセス道路と周辺道路の整備ということで、今回約2億7,600万円ぐらいの予算が平成29年度予算でつくわけなのですけれども、これはほとんどが土地の買収というふうに考えてよろしいのでしょうか。

○議長（三田敏秋君） 都市計画課長。

○都市計画課長（東海林則雄君） 用地買収の前に土地条例測量というのございます。それも、買う

部分の面積だけでなく1筆の面積をはかることとなりますので、相当の費用がかかりますし、あとは道路についても今基本設計やっておるわけですが、その詳細的な構造物とか乗り入れとかを含めた詳細設計も含まれております。あわせて、用地買収も含めての金額となっております。

○議長（三田敏秋君） 長谷川孝君。

○19番（長谷川 孝君） そこで、市長にお聞きしたいのですけれども、村上市はアクセス道路等に関しては厚生連に村上市が一応その部分に関してはお金を払いますよというような形で今まで来ているわけなのですが、あと残りの真ん中辺にあるその病院の候補地については、厚生連側が土地の買収に当たるわけなのですが、これがやはり同時並行ぐらいの形でいかないと、平成32年度中に建設が終わるといふふうに私は考えられないのではないかと思います。同時進行ぐらいに厚生連としては土地の買収を行っていく予定になっているのでしょうか、その辺教えてください。

○議長（三田敏秋君） 市長。

○市長（高橋邦芳君） 今定例会におきましても、幾つかご質問いただいている部分であります。今のところ私どもが承知をしているスケジュール感というものについては、全く問題ないという私は理解しております。

それと、これまでたびたびお話を申し上げてまいりましたとおり、地権者に対する説明会も厚生連と私どもで同席をさせていただいておりますし、地権者に対する個別の説明につきましても随行いたしまして、支援をしているという形であって、その中でトータルでスケジュール感をつくっておりますので、全く問題なく比較的順調に今のところ説明させていただいているなという率直な感想を持っております。

○議長（三田敏秋君） 長谷川孝君。

○19番（長谷川 孝君） では、平成32年に開院できるというスケジュールでいっているというふうに理解していいわけですね。

○議長（三田敏秋君） 市長。

○市長（高橋邦芳君） そのとおりでございます。

○議長（三田敏秋君） 長谷川孝君。

○19番（長谷川 孝君） 次に、村上市のスケートボードの建設について、先ほど市長答弁ですと、CLTを使う部分もあるのだけれども、その基礎的な面はあるし、構造でいくということだったと思うのですが、実は昨年12月10日に新潟県で初めてその5階建ての建物をCLTで全国初でやるという、こういう記事があるのです。これは、もう1階から5階までの全ての木造で、全国で初めてやるのだということがあるように、このCLTの技術は私が1年か2年前ぐらいに一般質問でやったときに比べると、相当進んでいるような形です。そして、まして山形県の新庄市には全国で、こちらが一番でっかいとなる、東京オリンピックのオリパラの需要を見込んでCLTの工場ができると。これは、年間12万立方メートルということは、新潟県の1年間のその丸太の生産量が11万

4,000ぐらいですから、もうそれ以上のものを1年間でCLTに加工するというぐらいの技術が進んでいるので、私はぜひともそういうふうな形で山形県の新庄市のところでやってもらって、それで山形、新潟、そういうのがこの地域産材、そしてCLTのある程度のそのメッカとなるように、このスケートボードの施設もそういうふうになってもらいたいというふうに常々思っていたのですが、RCを使わないと間に合わないというのは、市長が言われたのは本当かもしれないのですが、やっぱり考えられないでしょうか、今からその技術的な面として。

○議長（三田敏秋君） 市長。

○市長（高橋邦芳君） ぜひそうやりたかったのです。しかしながら、今あの5階建ての部分については、集合型の住宅が重なっていく形でありますし、我々が計画をしておりますのは、体育館型の箱であります。高さが13メートルというふうな形になるものですから、その構造体としてそれを全てCLTで作り込むのは大臣の認可が要ということで、そうすると2020年東京オリパラの1年前のスタートというところは、なかなかスケジュール感的に難しいよねという判断をさせていただきました。その結果、RCでベースはつくりますけれども、CLTの技術をふんだんに取り入れる形で、例えば入場したときにその姿が見えるとか、いろんな形でその観覧席とかそういうところにそれをつくり込むとかというようなところで、これは村上の地元の越後杉を使ってCLT技術でつくったのだよという仕組みにしていきたいなと思っております。

先ほちょっと触れましたとおり、加工工場が今新庄にできるというお話でありますけれども、現状選択できる場所が非常に遠距離にあります。そうすると、トータルで事業コストを考えたときのバランス、これをトータルで検討させていただいた結果の今の計画だということでご理解をいただきたいと思っております。

○議長（三田敏秋君） 長谷川孝君。

○19番（長谷川 孝君） わかりました。ともかく、そういうような地域産材をふんだんに使った形でつくっていただいて、この辺村上市が地域産材である程度有名な形に持って行っていただきたいというふうに思っております。よろしくお願いします。

次に、2ページに入ります。2ページの（仮称）村上市医学生修学資金貸与制度の創設というふうなのが載っておりますが、この構想はどのようなものか教えていただきたいのですけれども。

○議長（三田敏秋君） 市長。

○市長（高橋邦芳君） 現在新潟県さんのほうで提供しているような地域枠を活用した、地元で就業していただいてある一定年数の期間ドクターとして従事していただくという、そのために奨学金を出すという仕組みなのですが、うちのほうは残念ながら公立の病院がございませんので、民間の地元の二次医療機関と連携をせざるを得ないということでもありますけれども、そのところに従事していただくということを約束をさせていただいて奨学金を提供するというふうな今制度設計で関係機関と協議をさせていただいているというところであります。

○議長（三田敏秋君） 長谷川孝君。

○19番（長谷川 孝君） これは国立とか私立とか、そういう医学生にはかかわらないという形になるのでしょうか。

○議長（三田敏秋君） 市長。

○市長（高橋邦芳君） 医学部の対象は、特段国公立であろうが私立であろうが今のところは区分をしておりません。

ただ、そうすると奨学金のボリュームが変わると思いますので、それも視野に入れながら制度設計しているというところであります。

○議長（三田敏秋君） 長谷川孝君。

○19番（長谷川 孝君） 例えば自治医大とかですと、その授業料はゼロなのだけれども、自分行くところを拒否した場合には、やっぱり2,000万円から3,000万円近くかかるとかというような形があります。6年間で、医学部は6年間いなければだめですし、それから少しそのインターンとかいろいろやっていっていくと、本当にすごく長い間の奨学金になるのではないかと。それとあと、金額的にも相当大きいことになりますよね。一応その予算枠とか、そういうのを含めて何人ぐらいの対象として考えているのでしょうか。まだそこまで決まっていますか。

○議長（三田敏秋君） 市長。

○市長（高橋邦芳君） それは、トータルで財政計画も関係することでありますので、今まだ人数にまでは至っていないというふうに私は考えております。

ただ、しっかりとその制度設計をすることによって、当然それに係るコストがはじき出されますので、それを村上市の体力の中で飲み込みながら、地域の医療資源のところにしっかりとドクターというその医師を供給できるかというところ、これを今制度設計をしておりますので、そこで今後明らかになってくるというふうに思っております。

○議長（三田敏秋君） 長谷川孝君。

○19番（長谷川 孝君） 次に、保育環境の整備についてお聞きします。

第2次村上市の保育園の施設整備計画というのは来年度、平成29年度から平成33年度の5年間なわけですね。それで、村上地区にある幼保育園というのは、間もなく第一保育園は35年、第二保育園が34年、岩船保育園が31年、山居町保育園が38年経過していますよね。特に村上地区にある3保育園は、統合するというふうに計画ではなっております。場所については、以前はその村上総合病院跡地移転後の場所ということだったような記憶があるのですが、現在はその場所とかの計画は示されていないのですが、市長はその辺のお考えはどのようになっているのでしょうか。

○議長（三田敏秋君） 市長。

○市長（高橋邦芳君） 柔軟に対応していきたいというふうには実は思っております。

実は、いろんな事案がトータルでやっぱりコーディネートしていかないとだめだというふうには思

っています。それがそれだけ、それだけという形ではなくて、全部連携をさせなければならないと思っ
ていまして、またこれまでも何回かお話をさせていただきました、お答えをさせていただきま
したけれども、保育園のあり方そのものが非常に未満児に対するニーズが大きくなっている中で、
それを全てのその対象者を受け入れるような保育園であるべきなのか、または特化すべきなのかと
いうことも当然考えていかなければならないと思っております。保育園等施設整備計画、これの基本的
な考え方にのっかって、毎年毎年変化するその子育てのニーズに対応していく。その後、村上総
合病院が移転をしながら駅前周辺のまた再構築が始まるというときに、市街地を形成しているこの
3園のサポートするエリアに対する子育てのあり方なんかも、当然考えていかなければならない。
あとは、そうするとサイズなのですけども、サイズが例えば未満児をサポートするような施設で
あれば、それほど大きな敷地も要らない。また、静かな環境の中でそれを設けることが可能ではな
かろうかというような用地も含めて、今幾つか市内、市街地にありますそういうところもターゲッ
トにしながら考えていくということでもありますので、冒頭申し上げました柔軟な対応をこれからと
っていききたいというふうに思っております。

○議長（三田敏秋君） 長谷川孝君。

○19番（長谷川 孝君） この前山辺里保育園に我々の委員会で行ってきまして、未満児の受け入
れなのがやっぱり保育士不足から深刻な状態にあるようなのです。それで、3保育園が村上市の場
合は将来的には統合して、それで指定管理に移行するというような計画にのっているのですけれど
も、今回の整備計画の中にはのっているのですけれども、それはそれとして、保育の責任というの
は本市が担っているわけなので、保育の環境の整備とその保育士の人員の確保は、やっぱりしっか
り取り組んでほしいと思うのですが、この辺について市長お考えがありましたらお願いします。

○議長（三田敏秋君） 市長。

○市長（高橋邦芳君） その運営形態が指定管理、直営にかかわらず、保育行政に対する保育園の運
営そのものを村上市が担うというのは、これは当然のことでありまして、ここが絶対揺らぐことは
ないというふうに私は思っております。指定管理の皆さん方のそのスキルも非常に高度化しており
まして、その保育園を選択された保護者の皆様方からも評価をいただいているということもありま
す。ですから、そのサービスのクオリティーを絶対下げない形で、必要なものは必ず提供するとい
うところを担保していくということを実確なものにしていくということが大切であります。これは
直営であっても、指定管理であっても同じことだというふうに思っております。

ただ、いかんせんその保育に従事をする方々の絶対数量が足りない、これは現実であります。い
まだに我が村上市におきましては保育士の確保、職員以外の臨時的な保育士の確保というのに苦慮
しているところでありますけれども、そここのところの例えば所得水準を含めて、その賃金の改定も
含めてこれまで何回か取り組んできまして、少なからず成果は上がっていますので、そんなところ
がきっとワークライフバランスをきちんとつくってやることによってそれを選択できる。村上市に

おける保育園の職員として採用を目指したいという方々の意思にもつながっていくと、意向にもつながっていくと思いますので、そんなところをしっかりと取り組みを進めていきたいというふうには思っておりますが、なかなか厳しい状況であることには変わらないということでもあります。

○議長（三田敏秋君） 長谷川孝君。

○19番（長谷川 孝君） 次に、3ページに入ります。生活困窮者の家庭の小学校、中学校の学習支援を実施していくということですが、ちょっとお聞きしたいのですけれども、教育長にお聞きします。生活困窮家庭による今現在不登校学童、児童というのは76名おられますよね。この前資料もあって、全部で76名だ。それは小学校、中学校合わせてだと思うのですが、生活困窮者家庭のその児童とかがそういうふうな関連性というのはあるものなのかどうか。例えば生活困窮者の家庭のために不登校とかひきこもりとかという児童、学童はいるものなのかどうかについてちょっと教えてもらいたいのですけれども。

○議長（三田敏秋君） 教育長。

○教育長（遠藤友春君） 今ほど76名という数言われましたけれども、平成28年度はまだ確定しておりませんので、現在のところ一応76という報告しております。

その中で、生活困窮者の家庭と不登校に相関関係があるかといいますと、一応ないのではないかと考えております。ただ、ひとり親家庭の子が不登校になっているという事例が多いことは把握はしております。

○議長（三田敏秋君） 長谷川孝君。

○19番（長谷川 孝君） 教育長がそのないという、私はないというのを期待していたのです、実は。ということは、やはり子供が親が金持ちだとか貧困だとかで将来に対しての夢とか希望とか、そういうことを諦めないでもらいたいというのが私の考え方なのです。ということは、やっぱりたくましく育て、できれば村上市の医学生の奨学金制度でも利用して、それで医者さんになるぐらいの子供たちがあらわれてもらいたいというのが私の考え方です。

そこで、その学習支援の実施ということをやっているのですが、これはどういうやり方をするのでしょうか。

○議長（三田敏秋君） 福祉課長。

○福祉課長（加藤良成君） 生活困窮の関係で私が答えさせていただきます。

一応対象者にもしそういう方がいらっしゃるとすれば、1日2時間行って、月5回程度を支援していくというようなことで考えております。

○議長（三田敏秋君） 長谷川孝君。

○19番（長谷川 孝君） これは、今福祉課長が答えられたのですけれども、教育委員会と連動はしていないのですか、今のあれというのは。今教育長何か首かしげていたのですけれども、教育長はこの学習支援というのを知らないわけではないのでしょうか。

○議長（三田敏秋君） 教育長。

○教育長（遠藤友春君） 具体的にどのような策なのか私把握しておりませんが、全く連携していないということはありません。

○議長（三田敏秋君） 長谷川孝君。

○19番（長谷川 孝君） 連携してもらいたい。というのはなぜかということ、今福祉課長の言い方は、生活困窮者の学童とか児童に限定したような言い方しているわけです。そうではなくて、その人たちだけではなくて、一緒にまじってやれる方法でないちょっとおかしいのではないかなというような気がするものだから、その辺のやり方、手法とかをやっぴり福祉課と教育委員会と考えてもらって、子供たちに一番いいやり方を考えてもらいたいと思うのですが、教育長どうでしょうか。

○議長（三田敏秋君） 教育長。

○教育長（遠藤友春君） 議員おっしゃるとおり、縦割り行政ではだめですので、本当に子育てという観点で教育、福祉が連携して取り組まなければならないと思います。

○議長（三田敏秋君） 長谷川孝君。

○19番（長谷川 孝君） ありがとうございます。よろしくお願いします。

次に、岩船沖洋上風力発電についてです。各地で説明会が、1年間延びたことによる説明会は大体終わったと思うのですが、この中で市としても積極的な情報提供に努めるというようなことを言われています。そして、その中でやっぱり私は住民の説明会に来ていただいた人たちがどのような考え方を、質問とか意見とか述べられたのかというのが一番気になるわけなのですけれども、今までやった中で、そういうような中で何か市長として感じた点がありましたら教えていただきたい。

○議長（三田敏秋君） 市長。

○市長（高橋邦芳君） このたびも、年明けましてから昨年11月の推進協議会での事業性評価の1年延長ということ踏まえまして、市民の皆さんに丁寧に説明をさせていただきました。今回は、事業予定者を含めてより専門的な、どういう理由で事業性評価が延びたのかということも踏まえてご説明をすることができたのかなというふうに思っております。

これまでは、昨年の説明会もそうでありまして、今回の説明会もそうでありまして、既にいただいた質問に対するコメントはその都度、その都度出ささせていただいておりますし、それについてはオープンにされていますので、ぜひそんなところでまたご確認をいただきたいと思うのですが、総じてやはりこの事業そのものを大いに期待をしながら、ここに可能性を見出しているというご意見、それとあわせて、やはり我々がしっかりと先人から受け継いできたこの地域、この自然環境をしっかりと維持することの大切さ、また今一般海域でありますその海洋をいじることによりまして受けるダメージに対する危惧とか、さまざまなご意見をいただいております。これは、まさに市民の皆様一人一人のお考えなのだろうなということ、私は率直に受けとめさせていただいております。

ただ、いずれにしても、これまで村上市では推進をする立場で来ております。ここには、大いなる可能性を見出そうということでありまして、議会でご決議をいただいたこの趣旨を踏まえても、やはり我々が今そこにある可能性、これについてはしっかりと向き合っていくことが大切だなというふうに思っております。ただ、いろんな意見があるということも、これが現実でありますので、一つ一つの意見にしっかりと向き合いたいということで、これまで以上に情報公開、いろんな形で進めていきたいというふうに思っております。今情報センターのところでも、洋上風力発電に関する特設のコーナーを設けまして、情報提供しているところであります。

○議長（三田敏秋君） 長谷川孝君。

○19番（長谷川 孝君） 実は、岩船の若い人たちもその説明会行かないのに、メリットとかという話を教えてくれないかというメールとか来るのです。そうすると、長々と説明してやるとああ、わかりました。ありがとうございますとかという返事は来るのだけれども、実際本当に住民説明会に来る人というのは、岩船でもこの前30人弱だったように、では行ってみようかというふうに私が勧誘して来た人が10人ぐらいいるのだけれども、なかなか住民説明会の会場まで足を運んでくれる人はいないという現状を考えた場合に、私も積極的なその情報を村上市として提供するように努めるとあるのだけれども、コンソーシアムの人たちにも、ある程度の時期になったらきちんとやっぱり村上市民の皆さんに自分たちのその思いというのを伝えてもらいたいと私は思っているのですけれども、その辺に関して市長もぜひともお願いしてみたいのですが、いかがでしょうか。

○議長（三田敏秋君） 市長。

○市長（高橋邦芳君） 当然だというふうに思っております。まず、その事業予定者そのものが第一義的にこの事業を進めたいという意向があるわけでありまして、そこをしっかりと当事者である我々のそのエリアに対して説明していくというのは当然なのだろうと思います。

ただ、今事業性評価が延びる中で、この事業が果たしてこのまま継続できるのかどうかということを真剣に彼らは研究しているわけでありまして。これは、まさに営業活動でありますので、ここがマイナスになる中での事業推進というのはあり得ないわけでありましてから、そこをしっかりと見据えて、あるタイミングが来た段階で事業予定者の皆さんにしっかりとそのことについて取り組んでいただけるよう私からもお願いをしますし、みずからもそういうふうな形で、そのタイミングがくればやるという話を今回の説明会でもおっしゃっていたようでありまして、そんなところで連携を図っていきたいというふうに思っております。

○議長（三田敏秋君） 長谷川孝君。

○19番（長谷川 孝君） 次に、4ページの生活交通の確保、充実というところでちょっとお聞きします。

先ほど鷲ヶ巣の会長も、生活交通の確保ということを非常に重要視していたのですけれども、私も以前に一般質問で集落支援員という話をさせていただきました。そのときには、これからそのモデ

儿的な導入を行いというようなことまで答弁されているのだけれども、今何で集落支援員の話するかというと、これに関してはどうしても都会から連れてくるというのではなくて、例えばの話、議員のOBでもいいし、総代とか区長さんのOBでも、現職の人でも集落支援員になって調査しながら行政と今後について検討するというような人材になるわけですから、より具体的に進みやすいのではないかというふうに思っているのですけれども、今その集落支援員に関してはどのような考え方をしているのでしょうか。

○議長（三田敏秋君） 市長。

○市長（高橋邦芳君） 導入に向けて取り組みを進めていきたいというふうに、以前答弁を申し上げました形の中で今作業を進めております。

ただ、先ほどもちょっと触れましたけれども、集落支援員と地域おこし協力隊また区長さん、総代さん、これらの役割分担がいろいろな先進事例とか導入をされているところの事例を見ますと、経済的な理由、財政的な理由であったりとか、いろいろなものがあります。その中で、我が村上市に一番ベストな形でマッチングするものということで考えておりますので、それを踏まえて推進を図っていくという立場には変わりありません。

○議長（三田敏秋君） 長谷川孝君。

○19番（長谷川 孝君） わかりました。

次に、歴史的風致維持向上計画のところでもちょっとお聞きします。大町と小町周辺については、十輪寺を中心に拠点していくのだというふうに私は私の同僚の議員の佐藤議員のほうから聞いているのですが、ここにありますその旧ウオロクの跡地の利活用とかというのは、行政ではどのように考えている。

○議長（三田敏秋君） 市長。

○市長（高橋邦芳君） 歴史的風致維持向上計画の全体のそのスケジュールの中で考えていきたいというふうに思っております。今議員ご指摘のその大町小町線が重点区域になっておりますので、当面そこをターゲットにしながら作業を進めていきたいというふうに思っております。

ただ、村上市全域には、歴史的風致で大切に保存伝承していかなければならないというエリアがもっと幾つもありますので、そこのところもしっかりとピンポイントで対応していくような形を考えています。その中で、十輪寺中心ということにこだわっているわけでありませんで、やはりまた道路を中心とした景観、これは当然県との関係もあるわけでありますので、そういうつくり込みをしていく。そうすると、ウオロクの跡地というのは非常に実は魅力的である反面、どういうふうな活用が一番ベストなのかという非常に悩ましい部分でもあります。その辺のところを踏まえて、町内ではしっかり議論をしているということでご理解をいただきたいと思えます。

○議長（三田敏秋君） 長谷川孝君。

○19番（長谷川 孝君） 次に、ホームページの空き家バンクの登録等についてちょっとお聞きしま

す。

きのうのホームページを見てみましたら、空き家バンク今現在例えば塩野町にある空き家80万円とか飯野桜ヶ丘にある空き家が80万円とかというのも出ていますが、現在20軒で6軒が交渉中とあります。そして、平成23年度からこの空き家バンク登録始めたのですけれども、成立が21軒。この特に21軒の成立した人たちの家族構成とかというのは、自治振興課長ご存じでしょうか。

○議長（三田敏秋君） 自治振興課長。

○自治振興課長（川崎光一君） 把握しております。

家族構成でしょうか。

○19番（長谷川 孝君） うん。

○自治振興課長（川崎光一君） 21軒については、今ここで内容をお話ししたほうがよろしいですか。

○19番（長谷川 孝君） 大体アバウト、時間もないので、30秒で教えてください。

○自治振興課長（川崎光一君） 2人の世帯がほぼ半分を占めておりまして、中には4人世帯、3人世帯もおります。単身者もおります。

○議長（三田敏秋君） 長谷川孝君。

○19番（長谷川 孝君） その2人の夫婦だと思のですけれども、高齢者の方ですか。

○議長（三田敏秋君） 自治振興課長。

○自治振興課長（川崎光一君） おっしゃるとおり、高齢者の方が多うございます。

○議長（三田敏秋君） 長谷川孝君。

○19番（長谷川 孝君） まず、非常にこのホームページの空き家バンクというのは、私も時々見せてもらっているのですけれども、結構好評なのではないかというふうに思います。できれば、若い人たちが来てもらえるような、ちょっとそこに何かアクセントを入れるようなそのホームページの作り方をちょっと考えてもらえればというふうに思うのですが、よろしく願います。

次に、6ページの林業についてです。私どもが先日神林地区にあります丸実さんというところの専務さんとかに来ていただいて、いろいろ教えていただきました。〔質問終了時間10分前の予告ブザーあり〕非常に林業に関しては、やり方次第ではすごく大きい起業になるのだという話を聞いて、私ども目からうろこがというようなぐらい感動したのです、実は。ということはどういうことかといいますと、今東港とかにバイオマス発電とかありますよね、関川村はどうなるかわからないのですけれども。それから、先ほどからCLTの直交修正材、この活用とかもこれから進んでいくと。特にセルロースナノファイバーというその新素材が出てきたが、もうこれ自体が鉄筋、鉄の5倍の強度があって、それから鉄の7分の1ぐらいの重さなのだということで、非常にその活用ができるのだと。これは、パルプからできていますから、必ず林業に直結しているのです。こういうような部分の市場拡大が非常に見込めて、国内の材木に関しては非常に供給体制がきちんとしてできれば、すごい起業になるのだけれども、起業化できるのだけれども、今のやり方していたら、もう森林資源

は宝の持ち腐れだというようなことを言っていました。

これをではどうすればいいのかといったら、今の民間の森林持っている方たちがやっぱり集約化して、集約化することによってその作業道とかをもう一気につけて、それで今ですともうほっぽり投げておいているものだから、もうけるどころか固定資産税が40万円とか50万円とか年間持ち出しするだけで、もう一銭の価値もないというふうなところの人たちにお金が少しでも落ちるような形ですするには、やっぱり普通施す業というのは施業というのだけれども、林業の言葉だと施業というらしいのですけれども、その施業自体をきちんと作業道とかつけることによってやれば、非常に有望な市場になるのだということなのですが、農林水産課長、市長も専門家ではないかもしれないですけれども、こういうことを村上地区の丸実さんという、県の4回のうちの2回表彰されているぐらい優秀な企業で、変革に対応できるような企業でないとだめだということで、我々も力強くでは、地域産材がいっぱいあるのだから何とかしてもらおうというような気持ちあるのですが、こういうことに関して市長はどのように考えられますか。

○議長（三田敏秋君） 市長。

○市長（高橋邦芳君） 丸実さんの持っている技術、これ非常にすばらしいなということで日ごろからいろいろとお話をさせていただいております。また、新素材の部分のお話も、以前から実は聞いております。

実を言いますと、林業の部分に関しては、非常に手厚い実は補助政策があります。例えば今私もこの前林野庁OBの方の講演を聞かせていただいてああ、なるほどなと思ったのですけれども、日本国内における材の需要というのはほとんど変わっていない。以前からあるのです、山がにぎやかかりしころの状態そのまんまなので。ただ、輸入材に押されているということは、出口ベース価格がなかなか国産材ではそのこの出口の価格を構築できないというのが実は市場経済上は実態なのだろうというふうに思っております。そのこのところをしっかりと見据えると、国産材の部分というのは、なかなかその山元から製材へ行って最終的に商品になるまでのそのこの段階、段階のやはりコストというのですか、そのこの部分が非常に大きいというのがあるので、そこを例えば〔質問終了時間5分前の予告ブザーあり〕軽減することによって、市場経済に通用するような仕組みができる可能性があるなというふうに実は私自身は考えておるわけでありましてけれども、そんなところを見据えていけば、やはりこれはしっかりとしたものになるのだろうというふうに思っております。非常に高い補助率で提供しているのですけれども、なかなかではそこに手を挙げてくれないという部分がありますので、これからももっといろいろと協議をさせていただきながら、しっかりと取り組みを進めたいと思います。岩船東部線もできますし、それに伴う周りの路網整備も含めてやっていきたいというふうに思っております。

○議長（三田敏秋君） 長谷川孝君。

○19番（長谷川 孝君） 何かいっぱいことあり過ぎて、もう時間もなくなってきてしまったのです

が、最後に1つだけ、防災専門員のことについてお聞きします。

今回条例改正なのか、ちょっと気になる部分があるのですが、これは特別職の非常勤嘱託員という形になるわけですね。それで、待遇は副参事が参事の形。それで、危機管理で、この辺今私言った、総務課長この辺のあれでいいのですか。

○議長（三田敏秋君） 総務課長。

○総務課長（佐藤憲昭君） 非常勤の特別職ではありません。

○19番（長谷川 孝君） ではないわけですか。

○総務課長（佐藤憲昭君） 実は、法律につきましては地方公共団体の一般職の任期付職員の採用に関する法律、別法律に基づいて5年という任期を定めて採用するものでございます。職員でございます。

○議長（三田敏秋君） 長谷川孝君。

○19番（長谷川 孝君） ということは、5年間だけの職員というふうに理解して。

○議長（三田敏秋君） 総務課長。

○総務課長（佐藤憲昭君） 最長で5年でございます。

○議長（三田敏秋君） 長谷川孝君。

○19番（長谷川 孝君） いや、実は川崎市あたりのやっぱりこの専門員のところを調べましたら、1年契約で4年間、4回契約できるといって、防災企画専門員という形でやっていたものですから、それで私もこの今回出ている議案の中をいろいろ調べてみたら、再任用短期職員という等を加えたみたいな形になっているものだから、そういうふうな形なのかなというふうに思っていたのですが、では5年間だけ採用する正職員というふうに理解していいわけですか。

○議長（三田敏秋君） 総務課長。

○総務課長（佐藤憲昭君） 端的に言えば、最長5年間任期付きの採用ということになります。正職員でございます、当然職員数にはカウントされる方でございます。

○議長（三田敏秋君） 長谷川孝君。

○19番（長谷川 孝君） それは、待遇が副参事が参事ぐらいの人というふうになるわけですね。

○議長（三田敏秋君） 総務課長。

○総務課長（佐藤憲昭君） 今回給与条例の位置づけとしては、その位置づけで採用したいというふうに考えております。

○議長（三田敏秋君） 長谷川孝君。

○19番（長谷川 孝君） それで、時間ないのですけれども、最後に市長に観光誘客活動の中で瀬波温泉の考え方をお聞きしたいのですが、現在ホテルとか旅館とかが、帰化しているけれども、中国観光客をこちらのほうに来てもらうために買収したところがありますよね。そういうようなことを踏まえた場合に、瀬波温泉としての考え方として、そういうその中国の観光客を来てもらう、積極

的に誘致してもらいたいのか、それとも今までのやり方といたって台湾ぐらいのところに行って、観光誘客とかを活動はしてきたわけですが、どういう中国人の人たちの観光客、団体とかが来るかというのはわからないですけれども、現在今も来ているとは思いますが、その辺の捉え方としてちょっとどういうふうな考え方をしているのか〔質問時間終了のブザーあり〕

終わります。

○市長（高橋邦芳君） 中国総領事交代されましたけれども、何平閣下とお話をさせていただいたときには、やはり中国のいろいろなジャンル、いろんな分野の方々がやっぱり新潟に来たいということとで考えていらっしゃるということなので、ぜひ交流をさせてくれというような話もありました。

私ども村上市としては、国交のある国どこがいい、どこが悪いということの垣根を設けているつもりは毛頭ありませんし、あと実際にその受け入れ側の当事者としての温泉組合さんのお考え、これがやはり最優先されるべき。それこそホテル、旅館経営の主たる目的が達成されるような、そういうところが確保できるのであれば、それはいいのでないかなというふうに思っておりますので、その方々の意見を中心にしながら、村上市としてはいずれの国交のある国に対してもウエルカムという立場でいたいというふうに思っております。

○19番（長谷川 孝君） ありがとうございます。（拍手）

○議長（三田敏秋君） これで新政村上市の代表質問を終わります。

午後1時まで休憩といたします。

正 午 休 憩

午後 1時00分 開 議

○議長（三田敏秋君） 休憩前に引き続き会議を再開いたします。

○議長（三田敏秋君） 次に、清流会の代表質問を許します。

16番、川崎健二君。（拍手）

○16番（川崎健二君） ささやかな拍手、ありがとうございました。清流会の川崎健二でございます。代表質問の3番目となりました。前者とかぶるところもございますが、お許し願います。それでは、会を代表して市長の施政方針を中心に質問させていただきます。

まずは、さまざまな課題、市民のニーズの多様化の中で、過去最大規模である一般会計329億8,000万円という予算を組まれた市長を初め皆様のご苦勞に対し、敬意を表するものであります。施政方針の冒頭にあるように、急速に進む人口減少への対応、日沿道の関連予算、村上総合病院移転に伴う周辺の整備や（仮称）村上スケートパークの建設事業費など、ハード、ソフト全てにおいて大変な作業であったと思うが、平成29年度予算編成に当たっての思いをまずお聞かせください。

○議長（三田敏秋君） 市長。

○市長（高橋邦芳君） 議員ご指摘のとおり、今回編成をさせていただきました平成29年度当初予算につきましては、合併後最大規模というふうな形になるわけでありまして、第1次の総合計画からしっかりと基盤強化を図りながら、第2次の総合計画で次の新たなステージに向かう、そのスタートを切るというキックオフの予算という位置づけなのかなというふうに思っているわけでありまして、その中でこれまで毎年、毎年重ねてきた事業計画、その中であって、平成29年度の予算がここに到達をしたというふうに私は捉えております。この間、各関係課におきましてはそれぞれに施策の最優先をしていかなければならない部分を含めて、しっかりとその実態、課題に向き合う姿勢で予算編成に当たっていただいたなというふうに、私は本当に議員からお話しのありましたとおり、職員一人一人のその取り組みに敬意を表するものであります。

その結果、今回額的には合併後最大規模になりましたけれども、これは道半ばの人口減少対策に向かうその大きな時間軸の中での過程における一つの過程、通過点だというふうに捉えております。ですから、これをスタートといたしまして、これから5年間の第2次総合計画の中で我々が目指す最終的なその成果に結びつけていくという大いなるスタートを切るための予算であるなというふうに率直に感じているところであります。

○議長（三田敏秋君） 川崎健二君。

○16番（川崎健二君） 何といたしても本市では、一番の課題は人口減少の問題であると認識をしていますが、そのことに対応すべく村上市総合戦略によって施策を進めてきましたが、その検証はどのように感じているか伺います。

○議長（三田敏秋君） 市長。

○市長（高橋邦芳君） 人口減少に対する取り組みにつきましては、平成27年の12月に策定をいたしました人口ビジョン、これに基づいてそれに向き合う、向かうためにどういうふうな姿勢をとることが必要なのかということのあらわれが総合戦略だったというふうに思っているわけでありまして、先ほども触れさせていただきましたが、その中で特にやはりこの地域の経済をしっかりと支えていく、そのためにもそこで暮らす我々の生活がしっかりと確保されていくことをまず第1と考えながら、その中で豊かにその生活を育む。そこで、新たな若い世代も含めた形でありまして、子育てを支援していく。要するに、将来に向かって持続できるようなその地域社会というものはどういうものなのかというふうな形で取り組んだところであります。

その一旦として、商工観光の課長からお知らせをさせていただきましたとおり、産業支援プログラムの中で非常に大きな効果を得たなというふうに思っているわけでありまして、またそのほかにもいろんな形で地域の、村上市の持つ大いなるその魅力を発出することできたというふうに理解をしております。その具体的な例といたしましては、幾つかのその施策の中で大いなる効果を得た。例えばふるさと応援寄附金を挙げても、その効果というのはもう明らかでありますので、そういったところを具体的に表現をし、具体的に成果をあらわすことによって、ここに暮らす市民一

人一人のモチベーションをしっかりと上げていくというふうなところ、ここを実現することはできたのではなかろうかなというふうに思っております。しかしながら、まだ道半ばでありますので、さらにこれを進めていくということでもあります。

○議長（三田敏秋君） 川崎健二君。

○16番（川崎健二君） 施策を進めて短期間ではあるが、具体的な姿として見えてきているような実例があったらお聞かせいただきたいと思います。

○議長（三田敏秋君） 政策推進課長。

○政策推進課長（渡辺正信君） 総合戦略につきましては、要するに直接的になかなか人口をふやすうという政策というのは正直できませんでした。ただ、4つの方向性ということで、企業への支援、それから新たな魅力づくり、それから子育てを中心とした支援、それから地域連携というような4つの方向性の中で取り組みをしております。平成27年度から始めまして、実績では平成28年度にはほとんどやっているというような状況です。その中で、先ほどから言われているような産業支援プログラムだったり、それから子育て支援の環境の支援、例えば第3子の保育料無料化だったり、そういうものでそのいろんな取り組みの中で支えていくといいますが、それが実質的に数字としてどうのこうのということではなくて、住みよいまちへというような形で取り組みを進めてきたというのが実態であります。

○議長（三田敏秋君） 川崎健二君。

○16番（川崎健二君） 今後は、総合戦略を進める上でプラスして進める施策は考えているか伺います。

○議長（三田敏秋君） 政策推進課長。

○政策推進課長（渡辺正信君） 毎年年度ごとに検討会をしております。平成28年度も、ごく最近なのですけれども、検討会をやりました。ただ、平成28年度まだ終わりまで行っていませんので、ただその意見を聞いた中で、実際効果があるもの、ないもの色分けされます。それを検証しながら、新たなものの取り組みを当然のように考えていく必要があるかというふうに考えております。

○議長（三田敏秋君） 川崎健二君。

○16番（川崎健二君） 人口減少に対応することは、それだけ市民のニーズが多様化する。人口減少と反比例するとき行政の予算が増大していくと感じました。平成29年度予算であるが、市長の公約である市民ひとりひとりの幸せのためにを具体化するために、今後進めていく重要な施策について具体的な考えがあったら伺います。

○議長（三田敏秋君） 市長。

○市長（高橋邦芳君） ひとりひとりの幸せをどういうふうな形で表現をしていくのかということなのだろうと思うのでありますけれども、我々はここで生活をしています。日々生活をして、家庭をつくり、その地域コミュニティの中で暮らしています。当然ながら、そういう各世代、子供から

我々世代また高齢者の世代、いろんな世代のところで生活があるわけでありますので、その生活一つ一つを豊かにしていくということがまず必要だなというふうに思っています。そのためには、例えば平成29年度の当初予算に盛り込みをさせていただきましたいろいろな施策を通じて、実際にその各産業であったり、各分野を刺激することもそうでありますし、またそこに生活する我々の生活基盤をしっかり支えていくための支援も必要であります。

それと、さらにはもう少し長いスパンで、これからどういうふうなまちづくりを見通しているのかというようなその先の見通し、またさらにはそれを先に進める形でもう少し長い、長期的なスパンでのまちづくりというようなトータルのバランスで物を考えていかなければならないなというふうに思っておりますので、そんなところを見据えながら予算編成にも当たっておりますし、施策の運営にも当たっているということであります。一つ一つ我々時間を重ねますので、そこで提案をする施策一つ一つの事柄について常にPDCAを繰り返しながら検証をし、分析をし、さらに効果を発出できるような、そういう形にブラッシュアップしていくということが大切なので、そのことを中心に末ながら施策に取り組むことが重要であろう、肝要であろうというふうに思っております。

○議長（三田敏秋君） 川崎健二君。

○16番（川崎健二君） 平成29年度は、市民の長年の願いでもあった日沿道着工となるが、ことしの事業概要は。

また、今後の進捗も含めてお伺いいたします。

○議長（三田敏秋君） 市長。

○市長（高橋邦芳君） いよいよ朝日まほろばインターチェンジの先線でありますけれども、その本体工事に着手をするということで、1月にその事業者が決定をしたところであります。事業規模につきましては、おおよそ41億円弱というふうなことで、大須戸第1トンネルの施工に着手をするということであります。

ことし新潟県……

〔「大須戸第1トンネルと言わなかった」と呼ぶ者あり〕

○市長（高橋邦芳君） 大須戸第1トンネルに着手をいたします。

今年度当然議員ご承知のとおり新直轄方式での工事施工になるわけでありますので、地元都道府県であります新潟県の負担が必要になります。今回公表されました新潟県の県の負担金、これにつきましても平成28年度に比して大幅に増額がされております。これにつきましては、現在これから県の予算の中で審議をされるわけでありますけれども、そういった意味合いも含めて見ますと、新潟県を含めて我々基礎自治体、村上市の意向を踏まえた形の大いなるその足踏みが始まったなど、足を先に進める、そんな歩みが始まったなということで実は捉えているところであります。こんなところを踏まえまして、これから新潟県側だけでおおよそ1,600億円と言われている事業費でありますので、そのところをより加速をさせていきたいというふうに考えているところであります。

ちなみに、3分の1が地元負担になるわけでありますから、推してはかるべしで、相当なボリュームの作業がこれから進む、その覚悟を持ってやっていくのだということのあらわれだというふうには私は思っておりますので、地元といたしましてもしっかりと声を上げていくということ。これ実は国土交通省、また上京しまして関係各国会議員のところにお邪魔させていただきますと、やはり地元の熱意が一番だというお話をよくおっしゃいます。ですから、我々はしっかりとその思いを、その熱さを失わないような形で常にそれを言い続けていくことが大切でありますし、またその受け皿としての地元側のその体制もしっかりとつくり上げていくということで、やるべきことはいっぱいあると思っておりますので、これからはしっかりと進めていきたいというふうに思っております。

○議長（三田敏秋君） 川崎健二君。

○16番（川崎健二君） 道の駅朝日みどりの里へのインターチェンジについて、また国、県との協議会について伺います。

○議長（三田敏秋君） 市長。

○市長（高橋邦芳君） 朝日まほろばインターチェンジから先に今延びていくわけでありますけれども、そこから朝日まほろばインターチェンジから道の駅朝日へのロングランプによるアプローチ、これは従来から新潟国道事務所の所管になりますので、しっかりと協議をさせていただいたところであります。

現在もその基本的な考え方も、基本構想につまましてまとめさせていただいておりますので、それをベースにして具体化を図っていくということでもあります。これまでもたびたび申し上げておりますとおり、できてから考えるのではなくて、できたときをイメージしながら今からそれに備える形でつくり込んでいく。また、こっちから積極的に仕掛けていくことによって、その道の駅のパワーを発揮させることができるなというふうに思っております。そのことにつまましては、新潟国道事務所のほうもよく理解をさせていただいているなというふうに私は率直に感じておりますし、常にその辺のディスカッションをさせていただいておりますので、そこをしっかりと具体的に形にあらわしていく。いよいよ平成29年度本体工事も動きますし、道の駅朝日の部分についてのリニューアル作業も進めていくという時期に入ってきたなというふうに感じておりますので、そのところを踏まえてこれから作業を進めていきたいというふうに思っております。

いずれにしても、いろんな形で知見を活用しながら今そのつくり込みをさせていただいておりますけれども、地元の皆様方の意向を踏まえて、やはりこれは東北エリアに向かった窓口である、またゲートウェイであると同時に、プラットホームにもなれるというような形で、いろんな形の実はこの県境の村上市が果たす役割というのはあるのだらうと思います。その具体的なツールとして、道の駅朝日を機能させることが非常に重要なというふうに思っております。

○議長（三田敏秋君） 川崎健二君。

○16番（川崎健二君） 次に、平成32年開院を目指す厚生連村上総合病院移転新築を目指していよいよ

よ市道整備にも着手するが、全体計画は地権者、近隣住民の説明会なども含む病院側とスムーズに話は進んでいるのかお伺いいたします。

○議長（三田敏秋君） 市長。

○市長（高橋邦芳君） 先ほども少し触れさせていただいたわけでありまして、スケジュール的には非常に順調に進ませていただいているなというふうに思っております。基本的な構想、まとめ、基本設計、そして実施設計という形にこれから進むということになっていくわけでありまして、このたび昨年厚生連と締結をさせていただきました覚書の中にも盛り込んだ幾つかのメニューがありますので、それを踏まえてしっかりと今進めているところだというふうに思っておりますので、歩みをとめずに進めること、これが市民の皆さんの目に見える形での医療資源に対する安心感につながるのかなというふうに思っておりますので、そのところはしっかり進めさせていただきたいというふうに思っております。

○議長（三田敏秋君） 川崎健二君。

○16番（川崎健二君） 病院側、厚生連とは定期的に協議は行われておりますか、お伺いします。

また、行われているとすれば、現在の協議事項はどのようなになっているかお伺いします。

○議長（三田敏秋君） 都市計画課長。

○都市計画課長（東海林則雄君） 定期的に行っていきまして、病院のほうでは基本の設計等をやっておりますし、我々のほうでは周辺道路について来年から用地の買収というようなことで、その辺を造成を含めた調整を図りながら今調整中といたしますか、そういうことの打ち合わせをやっております。

○議長（三田敏秋君） 川崎健二君。

○16番（川崎健二君） これを見ますと、11ページの上のほうに出ておりますけれども、かなり広い道路つくみたいなのですけども、この先の七湊側はどういうふうになっているのですか。

○議長（三田敏秋君） 都市計画課長。

○都市計画課長（東海林則雄君） 七湊側、松山1号線のほうにつきましては、今県道からになりましたので、県のほうで踏切を含めた岩船港線の事業化に向けての調査等を入れておいてもらっていますので、その辺も村上地域振興局の整備部と協議を進めながら進めているところでございます。

○議長（三田敏秋君） 川崎健二君。

○16番（川崎健二君） 2020年の東京オリパラに向けた大型関連事業として、（仮称）村上スケートパークの建設を計画しているが、設計を含めた全体の事業計画はどのようなものかお伺いいたします。

○議長（三田敏秋君） 生涯学習課長。

○生涯学習課長（田嶋雄洋君） 平成31年の春を開館を目指しまして、今年度今基本設計、詳細設計に入っているところでございます。建設の経費としては、設計費や本体工事、外構工事、備品など

を含めて約17億円くらいになるというふうに見込んでおります。

○議長（三田敏秋君） 川崎健二君。

○16番（川崎健二君） 今ほど平成31年度春からの供用と言いましたけれども、供用後の管理経費を含めて利用計画を伺います。

○議長（三田敏秋君） 市長。

○市長（高橋邦芳君） その運営形態そのものにつきましては、先ほどもご答弁をさせていただいたところでありますし、いずれにしましても今回スケートボードを中心としたそういう屋内施設ということになりますと、国内最大級になります。

今ほど生涯学習課長のほうから事業規模につきましてお話を申し上げましたが、今のところ基本設計に基づいてマックスで見ているというところであります。今後の運営形態の部分も含めていろんな仕組みを考えていきたい。いずれにしましても、これはオリンピックを目指すトップアスリートの方にも活用してもらいたいと思っておりますけれども、全国から集まるそこを目指す方、また地元村上市にいるそういう方々、これが相互のいろんなやっぱりそのスキルの中で使っていただきたいという施設でありますので、運営については先般お答えをしまして、いろんな地元の地域型スポーツクラブとか体育協会とか、またそういう方々を含めて協議をさせていただきたいというふうに思っておりますし、今後の運営につきましては、ハードウエアとして整備をしました。それをどういうふうな形で提供していくのかということになると、やはり議員ご承知のとおりこのスケートボードというのはプロスポーツでもあるわけでありまして、カテゴリー的にはXゲームがあったり、オリンピックがあったりという仕組みになるわけでありまして、その辺のところの整理をしながら今後の運営については考えていきたいということでもありますので、そのこのところで運営に係る経費側につきましても明らかになってくるというふうに思っております。現時点でその経費についてこうなる見込みだということは、うちのほうでは把握しておりません。

○議長（三田敏秋君） 川崎健二君。

○16番（川崎健二君） スケートボード専用なのか、ほかに多目的にも使用可能なのか、その辺お聞かせ願います。

○議長（三田敏秋君） 生涯学習課長。

○生涯学習課長（田嶋雄洋君） 基本的にはスケートボード専用施設でございますが、今構想の段階では2階の部分でランニングができるような180メートルくらいの走路を構想しておりまして、屋根つきでございますので、特に村上地区にはそういった走路がございませんので、ランナーの方のトレーニングにも利用していただけるように考えているところでございます。

○議長（三田敏秋君） 川崎健二君。

○16番（川崎健二君） ソチオリンピックでの平野歩夢選手の活躍は市民に感動を与え、全国から村上が注視されたことは記憶に新しいです。私も、本気になって応援しました。しかし、このスケー

トパーク建設事業が一過性のものであってはならないと思うが、市長の思いを含めて大規模なスケートパーク建設構想について何うものであります。

○議長（三田敏秋君） 市長。

○市長（高橋邦芳君） 2014年ソチオリンピックでシルバーメダリストに輝いた平野選手、非常に私も感動してその姿を拝見をしたことを今また思い返しているわけでありますけれども、やはり我々村上市民にとってあのときは光り輝いた一瞬であったと思います。その一瞬を見るために、彼らはあの年数をかけて今のスケートパークでみずからのわざを磨き、みずからの生活を律し、オリンピックであの栄光に輝いたということであります。これは、やっぱり我々村上市民といたしまして、村上市といたしまして、そのレガシーというのですか、そういうものをしっかりと刻み込んでいくということは必要であります。

あと、老朽化した施設の中でありますので、あれを一刻もやっぱり解消しなければならないという私の強い思いもあったわけでありますので、それが融合しまして、今回また大規模なご寄附もいただいた、用地を確保することができましたので、そこにしっかりとそのメモリアルとしてつくるのが1つ。それと、これをしっかりと将来に向けてそれを使い込んでいく、使い倒すぐらいに使い込んでいく。その中で、国内のトップアスリートはもとより、いろいろなそういう選手を育て上げたり、その選手が育っていく姿を身近に見ることによって、ここで僕も、私もという思いに至る、そういう世代も出てくる、子供たちも出てくるのではなからうかなというふうに思っております。これができるのは、このスタートに立ったスケートボードを、今回初めて東京オリパラで正式種目になるわけでありますので、これをスタートさせるときの屋内施設を持っている村上市というのは、やっぱりこれは非常にそのパイオニアとしての位置づけを明らかにできるのではなからうかなというふうに思っておりますので、そんなところも踏まえてこれからしっかりとつくっていく、事業を成功させていくということが必要だろうなというふうに思っております。

○議長（三田敏秋君） 川崎健二君。

○16番（川崎健二君） 次に、岩船沖洋上風力発電についてお伺いいたします。

岩船から瀬波温泉まで岩盤の関係でだめだということで、岩船から塩谷までということなのですが、その先例例えば先般もちらっと話しして、荒川を越えて桃崎からまた中条のほうには行かないのかというようなことをこの前ちょっと聞かれましたので、そういうことはないなと思ったのですが、その辺どうなっているか教えていただきたいと思っております。

○議長（三田敏秋君） 市長。

○市長（高橋邦芳君） この事業につきましては、平成26年度に公募をした際にそのエリアを設定しております。これが荒川河口から北上する三面川河口までのエリアということでありましたので、それはやはり一般海域、海洋ではありますけれども、隣接する胎内市さんとの境界の関係もありますので、今後その隣接する胎内市さんの動向ということになるのだらうと思っておりますけれども、我々

が今回公募をして提供してそこで事業者を決定しておりますので、その部分の荒川から西側に延びていくということは現時点で想定をしております。

○議長（三田敏秋君） 川崎健二君。

○16番（川崎健二君） 次に、高速のりあいタクシーの運行ということで、村上市内から新潟へ通院を支援するためにこのジャンボタクシーを走らせるということですが、なぜ私これ聞くかという、実は私も月一で新潟大学病院へ行っているもので、ちょっとお聞きしたいのですけれども、これは出発時間が決まっているか。また、経緯はどのように、例えば村上出発して神林の道の駅とか、あるいは荒川まで行って荒川から高速乗るとかいろいろあると思うのですけれども、その辺お伺いします。

○議長（三田敏秋君） 自治振興課長。

○自治振興課長（川崎光一君） 高速のりあいタクシーでございますが、最初6時10分に道の駅朝日を出発いたします。それから、村上市役所、クリエイト村上の裏側、現在の循環バスの乗り場でございます。そちら6時25分、それから中央図書館前6時30分、それから神林支所前、正面玄関前です。付近ですが、6時43分、それから高速に上がりまして、荒川バスストップ6時50分でございます。そのまま高速を巡行いたしまして、新潟市内に入りまして、新潟万代病院が7時45分、それから新潟大学病院が7時53分、県立がんセンター新潟病院が7時55分、新潟中央病院に8時着となっております。その便が8時20分に折り返して同じ経路をたどりまして、最後10時10分に道の駅朝日のほうに折り返し着きます。

次に、行きは2便でございますが、10時50分に道の駅朝日を出まして、最後新潟中央病院着が12時40分でございます。それから、それが折り返しまして、13時に新潟中央病院を出しまして、最後道の駅朝日に到着が14時50分となっております。

○議長（三田敏秋君） 川崎健二君。

○16番（川崎健二君） ちなみに、料金はどのくらいですか。

○議長（三田敏秋君） 自治振興課長。

○自治振興課長（川崎光一君） 運賃でございますが、道の駅朝日、それから村上市役所、中央図書館前からはお一人1,000円、それから神林支所前と荒川バスストップがお一人800円、小学生以下及び障がい者の方につきましては、運賃が半額ということにしております。

○議長（三田敏秋君） 川崎健二君。

○16番（川崎健二君） ありがとうございます。

山北地区の越沢集落からバス、鉄道に接続するためのデマンド型のりあいタクシーについても、本年4月から運行を開始いたします。ちょこっとのことなのですが、これもちょっと説明お願ひできますか。

○議長（三田敏秋君） 自治振興課長。

○自治振興課長（川崎光一君） 越沢集落からの路線バスとJRに接続するためののりあいタクシーのほうを4月から運行を開始いたします。1便が6時45分、越沢集落スクールバス待合所を出まして、6時55分に寒川駅到着。こちらにつきましては、予約が不要となっております。それから、2便なのですが、8時45分に越沢集落スクールバス待合所、8時55分に寒川バスの停留所に到着いたします。こちらのほうは予約が必要でございます。

帰りの便でございますが、1便が13時10分に寒川バス停、これは路線バスのバス停でございます。出まして、13時20分に越沢集落到着。こちらのほうは、予約が必要となっております。それから、2便目が18時、こちらのほうは寒川駅でございまして、18時に寒川駅を出発しまして、18時10分越沢集落到着しまして、こちらのほうは予約が不要という扱いでございます。

利用料金につきましては、お一人100円という設定でございます。

○議長（三田敏秋君） 川崎健二君。

○16番（川崎健二君） ということは、越沢から要するに寒川までということなのだね。わかりました。

次に、新規のあれで村上城の駐車場用地の確保ということで、これは前林業試験場あったところでしょうか。

○議長（三田敏秋君） 市長。

○市長（高橋邦芳君） 林業試験場あったところではありません。お城山の下の今住宅街になっているところの一部、そこを駐車場として用地取得をしたいということであります。

○議長（三田敏秋君） 川崎健二君。

○16番（川崎健二君） 昔私ら学校下がりのころは、あそこに〔質問終了時間10分前の予告ブザーあり〕朝日へ今行っているけれども、林業試験場、あそこに林業試験場あったのです。あの跡地ではないのですか。

〔「違います」と呼ぶ者あり〕

○議長（三田敏秋君） 生涯学習課長。

○生涯学習課長（田嶋雄洋君） お城山の駐車場の予定地は、今のお城山の登り口に向かって左側が元の林業試験場とかがあった居館の部分になりますが、反対側のお城山の登り口に向かって、育英会の事務所に向かって右側の羽黒口の近くになります。

○議長（三田敏秋君） 川崎健二君。

○16番（川崎健二君） わかりました。

続いて、平林城跡の多目的トイレ建設工事について、これ場所的にはどの辺でしょうか。

○議長（三田敏秋君） 生涯学習課長。

○生涯学習課長（田嶋雄洋君） 平林城跡のちょうど小口の坂に向かって左側に市の所有している土地があります。道路がちょうど鍵の手になっている鍵になるところで、つい最近まで発掘調査のプ

レハブの小屋のあった近くでございます。

○議長（三田敏秋君） 川崎健二君。

○16番（川崎健二君） そうしますと、葛籠山のほうから行ったところだね、川辺のほうからではなくて。

○議長（三田敏秋君） 生涯学習課長。

○生涯学習課長（田嶋雄洋君） 千眼寺のほうから行ったところでございます。

○議長（三田敏秋君） 川崎健二君。

○16番（川崎健二君） かなり大きいようなトイレできるのですけれども、これはここに展示室とあるけれども、これ何展示するのですか。

○議長（三田敏秋君） 生涯学習課長。

○生涯学習課長（田嶋雄洋君） 余り大きな施設にはならないのですが、トイレのほかにガイダンス施設といいたいでしょうか、平林城跡をご案内するためのパネルなどを表示してごらんいただきながらその後登っていただいたり、あるいはお帰りのときにまたトイレ利用していただいたりというようなことで、トイレのほかにそのガイダンスのところには椅子なども用意したいというふうに考えております。

○議長（三田敏秋君） 川崎健二君。

○16番（川崎健二君） 次に、朝日支所庁舎大規模改修事業ということで、私もめったには行かないのですけれども、朝日支所行くと何か暗いような感じしまして、今度明るくはなると思うのですけれども、ここに今度商工会と社会何とか入ると言ったけれども、それ教えていただけますか。

○議長（三田敏秋君） 朝日支所長。

○朝日支所長（齋藤泰輝君） 入る予定の団体は、朝日商工会さんと村上市社会福祉協議会朝日支所が新たに入ります。

○議長（三田敏秋君） 川崎健二君。

○16番（川崎健二君） そうですか。ありがとうございました。

市長が市政を担う上での基本理念と考えていることは何か、再度お伺いいたします。

○議長（三田敏秋君） 市長。

○市長（高橋邦芳君） 今回第2次の総合計画の中で明らかにさせていただきましたとおり、全ての人の笑顔を実現したい、これが私の今市政運営に当たっている上における理念というふうに理解をしております。

○議長（三田敏秋君） 川崎健二君。

○16番（川崎健二君） 本市においても人口減少、地域経済の活性化、そして幾つものなさなくてはならない大型プロジェクト等課題は山積しておりますが、市長が常々述べておるオール村上行政はもとより、市民の皆様と一体となり、市長の目指すひとりひとりの幸せのため、リーダーシップを

十二分に発揮されることを期待いたします。

また、今回退職される〔質問終了時間5分前の予告ブザーあり〕8名の課長には、長い間のご苦労に対し心からお礼を申し上げますとともに、今まで多くの経験をもって本市のためにお力をいただくことをお願い申し上げ、私の代表質問を終わります。ありがとうございました。（拍手）

○議長（三田敏秋君） これで清流会の代表質問を終わります。

午後1時55分まで休憩といたします。

午後 1時41分 休憩

午後 1時55分 開議

○議長（三田敏秋君） 休憩前に引き続き会議を再開いたします。

○議長（三田敏秋君） 次に、高志会の代表質問を許します。

7番、尾形修平君。（拍手）

○7番（尾形修平君） それでは、高志会を代表いたしまして、質問をさせていただきたいと思えます。今までなされた方と若干かぶる、重複する部分があるかもしれませんが、その部分に関してはなるべく重複しないようにしたいと思いますので、よろしくをお願いします。

まず初めに、本年度の予算規模は過去最大となっており、積極予算となっておりますが、昨年度と比べて市債が34億8,290万円と7億3,000万円ほどふえております。また、基金繰入も1億7,000万円ほどふえております。国庫支出金の減少する中で、どのようなお考えで編成をなされたのか伺います。

○議長（三田敏秋君） 市長。

○市長（高橋邦芳君） 今回の予算編成に当たっての財源の原資についての言及が議員からあったわけでありまして、確かに非常に厳しい状況を踏まえた予算編成にはなっております。しかしながら、これまでも何回か私のほうからお話をさしあげているとおり、やはりこの予算というものはそれぞれの時間、経過の中においてどのタイミングでどういうものを、どういう形で投入していかなければならないかということも判断をしなければならないというふうに思っております。ですから、8年間の第1次総合計画で積み上げたものを踏まえて、これからの第2次総合計画にスムーズにそのステージ移行ができるような、そういう予算編成をした結果、またそこには途中で2020年の東京オリンピック・パラリンピックという、そういう事実もあるわけでありまして、それを考えていったときに、今ここの予算がこういうふうな形になったということでありまして。

ですから、予算編成に当たっては、平成28年度もそうでありましたし、平成29年度もそうでありまして。これから先の平成30年度以降の予算もそうであると私は思っておりますけれども、1会計年度のみならず、やはりある程度のスケジュール感を持った中での予算編成を財政計画を見通しながら

ら立てていくというふうなことが必要だろうと思っておりますので、今回平成29年度は第2次総合計画のスタートをさせる年としての位置づけをさせていただきました。

○議長（三田敏秋君） 尾形修平君。

○7番（尾形修平君） 現在基金の残額が約90億円あるわけなのですが、ことし市長の答弁にありましたように大型事業がめじろ押し、出発の年になるのだというふうに思っておりますけれども、先ほど来各会派の皆さんから言われているように、この合併して広大な面積を有する村上市で施設の老朽化、維持管理も含めてこれが大変大きな予算がそれにかかってくるのではないかと、いうふうに私は思っているのです。その中で、今回の平成29年度の予算も含めて、このまま持続可能な予算体系になっていくのかというのが市民を含めているいろんな方が懸念されている部分ですので、その辺市長のお考えをお伺いしたいと思います。

○議長（三田敏秋君） 市長。

○市長（高橋邦芳君） 我が村上市、非常に広大な面積を有しております。その中で、非常にコストがかかって容易でないなと思っているのは、やっぱり公共交通体系を維持していくのも大変です。その中に、これまで合併前の5つの行政体で、その地域のやはり行政サービスを考えたときにつくり上げてきた公共施設というのがあります。これは、全ての分野についてあるわけでありまして。その中で最たるものが保育園であったり、学校教育の部分については、人口減少と相まって少なからず統廃合をしていかなければならないという状況が今まさに目の前にあります。

それと同様に、この地域の中で今高速道路が通る中で新たに創設をしていかなければならない部分、また村上総合病院が移転することに伴って新たに再構築をしなければならないまちづくりというものもありながら、旧来からのそういう公共施設もあるというところでありまして、そこはやっぱりスクラップ・アンド・ビルド、今ある公共施設が未来永劫あるという考え方でなくて、それを統廃合していったコストを縮減をしながら、新たに効果の発揮できるような公共施設に移行していくのも一つの考え方でありまして、議員ご指摘の今ある公共施設、これが私は未来永劫全てあるものという理解は全くしておりませんので、そこをスクラップ・アンド・ビルドしていくつもりであります。

○議長（三田敏秋君） 尾形修平君。

○7番（尾形修平君） わかりました。

それでは次に、主要事業に沿って質問してまいりたいと思っておりますので、よろしくお願いたします。まず最初に、いきいき元気な笑顔輝く支え合いのまちづくりから、年々増加する生活保護費についてですが、予算ベースで平成23年度で5億9,800万円であったのが平成29年度8億4,500万円と、2億4,700万円もふえている現状であります。人口が平成23年度と比べるとおおよそ5,000人近く減少している中、生活保護費だけが右肩上がりになっていっているのが現状であるというふうに私思っておりますけれども、この負担がどこまで耐えられるのかというのが非常に私疑問に思うと

ころであって、市長のこれからのこの問題に関する取り組み方についてご見解を伺いたいと思います。

○議長（三田敏秋君） 市長。

○市長（高橋邦芳君） 社会保障費がやっぱりいろんな分野、生活保護費も含めてふえていっているという実態があることは、これは否めない事実であります。人口の構造そのものが変化している中でありますし、またそれに加えて社会的な情勢も変化しているということで、非常になかなか難しい状況にあるなというふうには思っております。

しかしながら、先ほど来大型の投資的事業がちょっとクローズアップされがちですけれども、市としてはやはりその一番そういう部分、傷んでいる部分については、しっかりと丁寧に向き合っていこうということでありますので、それについての備えというのですか、基金も含めてそれをやはり知恵を出しながら捻出をしていって、そこもしっかり対応していくということは必要だと思えます。しかしながら、やはり人口は減少していくのですけれども、逆に言うとそれがゆえになかなか生活がしづらい状況もあるというのも実態であります。そのところは、しっかりと分析をしながら対応していく。それを維持していくことができる、そういう財政計画、これをベースにして進めていきたいというふうには思っております。

○議長（三田敏秋君） 尾形修平君。

○7番（尾形修平君） 生活保護というのは、一時的に生活が苦しい方に対して支給するもので、一度支給されれば未来永劫続く制度ではありませんので、福祉課長にお伺いしますけれども、この5年間ぐらいの中で途中で生活が自立できるようになって打ち切ったというようなケースがどれぐらいあるか。

また、この平成29年度予算8億4,500万円の裏づけとしてどの程度の世帯数を見込んでいるのか、お聞かせ願いたいと思います。

○議長（三田敏秋君） 福祉課長。

○福祉課長（加藤良成君） 最初は、どのぐらいというのでしょうか、私もちょっと把握していないので、大変申しわけございません。

それから、2項目めですけれども、一応今の予算では436世帯を見て予算計上をしております。

あと、やはり医療の扶助というのでしょうか、それらがふえてきておるといようなことで、先般の12月の補正にもお願いしたといようなことがありますので、そのような関係でいろいろふえているということになります。

○議長（三田敏秋君） 尾形修平君。

○7番（尾形修平君） 本当にこの世帯数も年々増加しているという現状で、昨年の当初から比べると約80世帯ぐらいふえているのではないかなと私は今思ったのですけれども、ある程度それこそ自立できるようになった時点で打ち切るというのも、非常に厳しい環境にあるのかなというふうには思い

ますけれども、実態ですが、市民の中からでも報道なんかでも不正な受給をされている方もいるのではないかというふうな話が出るものですから、その辺しっかり担当課として管理、監督していただければというふうに思います。

次に進みます。ひと、まち、自然が調和する美しい定住のまちづくりから、歴史的風致維持向上計画が事業実施となりますが、外観修景工事に対して助成を行うとして本年812万円の予算が計上されておりますが、補助対象の内訳、ここに書いてある内訳というよりも、もうちょっと突っ込んだのを説明していただきたいと思いますし、あと今後の取り組みに関して、平成37年度を目指した取り組みに対して説明願えればと思います。

○議長（三田敏秋君） 都市計画課長。

○都市計画課長（東海林則雄君） 今年度の予算につきましては、小町地内におきまして住宅の外壁の部分が1件、それから塀について1件、あとは屋根前の部分について2件ほど予定しております。

これらの事業につきましては、去年の10月に認定になったばかりで、国費もらう関係もありまして、新年度の議員ご存じのように要望というのは、その時期にはもう翌年度要望というのを入っておる時期でございます、平成29年度はそのようなことで予定しております。

今後につきましては、ことしの電柱の無電柱化の調査でありますとか、その他修景イメージ図につきまして、3月に成果上がってきますので、4月に入ってから住民に説明をしながら、住民の方に事業をやってもらう形になりますので、3分の1は自己負担でございますので、募集を募りながら皆さんにご説明しながら趣旨を理解していただいて、事業に賛同してもらえる方につきましては、できるだけ事業を起こしていきたいと考えております。あと無電柱化、その他道路の無線化につきましては、現状が県道でございますので、今県と協議をしながら昨年の9月に地元説明会したわけでありまして、そのときにも県のほうで今後の事業化に向けた調査ということで説明されていまして、今現場で平面の調査ですとか、建物の調査を行っていますので、来年度には県のほうも今後の進め方について説明できると聞いておりますので、今現状そんなところでございます。

○議長（三田敏秋君） 尾形修平君。

○7番（尾形修平君） 今都市計画課長から説明ありましたが、平成29年度に関しては2件ほどの予定をしているというふうに伺いましたが、例えば平成30年度以降、その前年度に調査して、平成30年度には何件が対象を希望するのかというのをとりながら多分進めていくのだというふうに私思うのですけれども、例えばこれ自己負担が3分の1あるわけですから、最終的に平成37年度までにできなかったと。それがいわゆるその歯抜け状態みたいになる可能性もあるわけです。その辺についてはどのようにお考えでしょうか。

○議長（三田敏秋君） 都市計画課長。

○都市計画課長（東海林則雄君） 今修景イメージ等をつくっております、現時点におきましても駐車場等で歯抜け状態の形になっております。その辺は、塀でやってもらうとか、今の所有者の

方々に理解を求めながらやっていきたいと思っていますし、あとは銀行さんとかその辺の方の事業所につきましても、回って協力を願っているところでございます。

○議長（三田敏秋君） 尾形修平君。

○7番（尾形修平君） そうすると、今大町、小町地区が対象地域になると思うのですけれども、例えば大町が全部完成しないうちに小町のほうが残ってしまうとかという可能性も出てくるのではないかなというふうに私危惧するのですけれども、その辺いかがでしょうか。

○議長（三田敏秋君） 都市計画課長。

○都市計画課長（東海林則雄君） 私どもとしては、そういうことを懸念されるわけですが、そういうふうにならないように努めて努力してまいりたいと思っております。

○議長（三田敏秋君） 尾形修平君。

○7番（尾形修平君） ありがとうございます。

それでは次に、空き家対策についてですが、本年空き家等対策計画の策定に向けて実態調査を行うということで、先ほど板垣議員からも質問ありましたけれども、業務委託料230万円が計上されております。先ほどの市民課長からの説明で、調査の内容についてはある程度わかったのですけれども、平成23年度のときに区長さん、あと市の職員を含めて外観から目視でやられたときに、1,530軒ぐらいあったというふうにたしか報告受けているのですけれども、それが今回1,700軒を対象にということになっているわけなのですけれども、私も以前から一般質問等で言っていますけれども、空き家だけではなくて、例えば倉庫また事務所、あと工場を含めるとかなりの件数に私はなるのではないかなというふうに思っています。7号沿線でも、例えば固有名詞挙げて悪いのですけれども、今宿の三和電気さんとか、あと岩船のこれからどうなるかわからないのですけれども、ホシデンさんとか、かなり大きな工場等も放置されている状況にあります。その辺に対しては、担当課としてどのように考えているのかお伺いいたします。

○議長（三田敏秋君） 市民課長。

○市民課長（尾方貞一君） これから今のところ前回の調査の1,500軒、それからその後こちらのほうに情報が寄せられた分が200軒ほどございますので、そういったことをもとに1,700というような数字を上げているわけですが、調査の中で多分またここも空き家、そこも空き家というようなことで情報が寄せられる可能性はございます。そういったものにつきましては、この機会に調査をしていきたいというふうに考えております。

○議長（三田敏秋君） 尾形修平君。

○7番（尾形修平君） これは、私どもの市民厚生委員会では本年度秋田県の仙北市というところに空き家の解体助成費について視察に行っていました。担当の方から意見を伺いながら、私らはぜひこの村上でも、本市でも助成費については導入していただきたいというふうに私は感じましたし、先般行った建設業協会との意見交換会の中でも、解体費助成をぜひやっていただきたいという

ふうなお話あったのですけれども、市長いかがでしょうか。

○議長（三田敏秋君） 市長。

○市長（高橋邦芳君） 先ほどの空き家の部分についての空き倉庫、空き事務所、非常にその部分も大切だなというふうにお聞きをさせていただきました。少なからずその事業体が撤退をする中であって、利活用を図るということのコーディネートもさせていただいているところでもありますので、ぜひそんな形で次にしっかりつながるような仕組みであれば傷みませんので、そういうふうなところも視野に入れながら進めたいというふうに思っております。

空き家については、非常に本当に悩ましい部分なので、先ほどもお答え申し上げましたとおり、専門的な知見を活用して、宅建事業者さんを中心にした形でより効果的な対応ができる仕組みを平成29年度つくり上げたいというふうに思っております。その中において、その解体を余儀なくされるというか、解体の選択しかないものについて、やっぱりそれ解体しないのです、現実問題。できません。所有者しないのです。ですから、そのところを何とかしなければならないという、そういう制度設計については、多分必要なのだろうなというふうに思っております。

少し前ですけれども、国のほうでもその空き家対策部分について、制度的にその解体に係る費用についてを制度設計しようというご発言がたしか国土交通省だったかからあったと思いますので、そんなところもことしの秋ぐらいには制度化されるような見通しが立つわけですので、しっかりその制度の推移を見きわめながら、それに速やかに対応できるように、今うちが調査をするのと施行に合わせた形で対応できるような仕組みでその事務を進めてくれということで、原課のほうには指示をしているところであります。

○議長（三田敏秋君） 尾形修平君。

○7番（尾形修平君） 皆さん新聞等でご存じだと思うのですけれども、近々で関川のほうで老朽化した旅館を解体し、特措法に基づいてやったわけでしょうけれども、新聞報道なんかでは2,200万円ぐらいが一時村の肩がわりとして行われたと。現実問題その2,200万円が回収できるかなと私考えたときには、多分無理なのだというふうに思います。そうすると、市の先ほど来から言っています財源も含めて対応するとなると、相当な費用がかかるのではないかというふうに思っているのですけれども、それも含めて解体助成、ちょっと補助すれば所有者の方がやってくれる可能性があるのであれば、ぜひその代執行までに至らないうちにやっていただければなというふうに思いますので、よろしくをお願いします。

あと、空き家バンクを通して村上に移住されている方が先ほどのお話で二十数世帯おられますけれども、確かに空き家バンクを通して移住される方には、その世帯の構成に応じてリフォームの補助制度があります。しかし、独自に土地を購入して家を建てて移住しようという思いの方に対して、今現行の村上市の制度を見ましてもないのです。それがちょっと不公平感があるのではないかというふうに私ずっと以前から感じていたのですけれども、市長のご見解を伺います。

○議長（三田敏秋君） 市長。

○市長（高橋邦芳君） しごくごもっともお話だなというふうになんて聞こえました。

それで、今奨学金制度につきましても、Uターンの部分についてはその軽減策を図るということで制度設計している中であって、いろんなところに柔軟に対応できるような形で制度設計をしていきたいというふうに思っておりますので、直ちに研究をさせていただきたいと思っております。

○議長（三田敏秋君） 尾形修平君。

○7番（尾形修平君） ぜひよろしく申し上げます。

次に、産業をつくる地域の誇り、活力みなぎる賑わいのまちづくりから、林政の課題に関して、かつて村上市では県立桜ヶ丘高校に林業科があり、多くの人材を輩出してまいりました。現在新潟県には農業大学校というのが巻にあります、林業専門の学校はありません。全国の自治体では、林業大学校の設立が相次いで行われている状況であります。2011年以前には6都道府県しかなかったのが、現在14校までふえております。さらにことしは岩手、兵庫、和歌山で開設予定であります。林業従事者の確保、育成のためには、これ新潟県のほうにぜひ働きかけていただいて、県の林業試験場も朝日地区にありますし、本市の林業大学校の誘致を図っていただきたいなというふうに思っております。平成31年には学校の統廃合も進められて、箱物としての保育園も含めて箱物は出てくるわけですから、その辺の活用も含めた中で、ぜひこの林業大学校誘致していただきたいというふうに思っておりますけれども、市長のご見解を伺います。

○議長（三田敏秋君） 市長。

○市長（高橋邦芳君） それこそ、これまでもいろんな形で担い手の育成も含めて進めてきておったわけでありましてけれども、まさにそういう視点が欠けていたなというふうに今率直に感じ入りました。

林産業をしっかりと戦略的に打って〔質問終了時間10分前の予告ブザーあり〕いかなければならないということを標榜している村上市にとっては、まさに取り組むべきやっぱりそういうことなのだろうなというふうに今ちょっと感じましたので、早速どういうふうな形で、どういうふうなアプローチをしながらそれを実現化していくのかということ、ぜひまた議員からご指導もいただきながら、しっかりとできる方向で進めていきたいというふうに思っております。

○議長（三田敏秋君） 尾形修平君。

○7番（尾形修平君） 現在村上市としても、ウッドジョブという体験の場も提供していて、高校生の方が数名参加されているということで、現実的にその方が林業の現場に入れればいいのですけれども、現在の林業というのは、やっぱり高性能林業機械とかコスト管理とか、先ほど市長がおっしゃられているように幅広い知識が必要になってくると思いますので、この林業大学校、そんな大きい規模ではなくて1学年20人とか10人程度の学校なのですけれども、ぜひこの村上を中心に新潟県の林政を引っ張っていただければなというふうに思っておりますので、よろしくお願ひしたいと思

います。

次に、ふるさと納税の件ですが、本年度1億8,500万円のふるさと納税をいただきました。その半分が返礼品に充てられています。事務委託をお願いしている越後村上物産会のほうには、手数料収入として10%、約900万円が入っているというふうに思うのです。昨年度の物産会に対しての市からの補助金が208万円だったのに対して、本年度が227万円になっています。この増額理由と、今後このふるさと納税の事務委託を物産会に引き続きしていただく考えなのか。補助金の、それだけ900万円も入れば補助金は本来要らぬのではないかなというふうに私は考えたのですが、その辺の考えを担当課長でもいいし、市長でもいいですので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

○議長（三田敏秋君） 市長。

○市長（高橋邦芳君） 計数的な部分については、課長のほうからお願いしたいと思ひますけれども、基本的な考え方としては、越後村上物産会の皆様方、非常に容易でない思ひをしてこの返礼品のお返し作業に当たっていただいているなということで、実は感謝をしています。あとは、その運営側につきましても、行政が本来であれば取り組むというよりは、市場経済をよくご存じの皆様方が直でそういう対応していったほうがいいわけでありまますから、そうするとそのコストをやっぱり削減をして、要するに経費を削減していつて、利益の幅を大きくしていきたいなというふうに私自身は率直に思っておりますので、その辺の計数のバランスを見させていただきながら、これからしっかりと自立できるような形の仕組みにしていきたいなというふうな思っております。

○議長（三田敏秋君） 商工観光課長。

○商工観光課長（竹内和広君） 市長の答弁とちょっと重複する部分がございますが、そもそも越後物産会さんのほうにお願いした経緯には、やっぱり物産会の体質を強化していかなければならないという思ひもございました。また、ちょっと当初もこれ以上売れるとも思わない中での制度設計でしたので、現在このような形で売れてくるというようなご意見は正直頂戴しております。

この越後村上物産会自体は、市町村合併前の7市町村の負担金で構成されておりました。実は、上限が決まっているような形での負担金という形での補助でしたが、合併後そのまま引きましたが、現在実は関川、粟島の加盟の方が非常に少ないということで、ちょっと割合の見直しをしました。どうしても村上の業者さんが余計で、その分だけの増額ということでございます。

それから、補助の考え方といたしまして、それだけ収入があるのであればという話でございますが、平成29年度からそもそも補助の見直しの仕方を変えました。物産会との話し合いの中で、どの団体もやった分の3分の1なのだよという原則ですので、やっていただいて、その3分の1は補助しますというスタンスの制度要綱も変えさせていただきまして、極端な話やらなければその分は行かないと。ただ、上限がございますので、上限の設定は今までどおりの額とさせていただいた経緯がございます。

○議長（三田敏秋君） 尾形修平君。

○7番（尾形修平君） このふるさと納税の制度につきましては、今昨日の市長のお話もありましたように、東京都では23区合わせて約208億円の税流出があったというふうに言われておりますし、一番盛んな〔質問終了時間5分前の予告ブザーあり〕宮崎県の都城あたりだと73億円、次に静岡県焼津だと37億円ですか、3位にお隣の天童市が32億円ということで、それだけの収入が今後村上にもないとは限らないので、そうなったときにはいつまでふるさと納税のその事務を物産会に預けておいていいのかなという思いもあったものですから、質問させていただきました。

最後になりますけれども、伝統と文化を育む健やかな郷育のまちづくりから、今回のスケートパーク建設事業については、先ほど生涯学習課長から総事業費が17億円くらいかかるのだろうということでお話しいただきましたけれども、この財源の裏づけについて過疎債を利用するということだと思っておりますけれども、財源の内訳についてちょっとご説明願いたいと思います。

○議長（三田敏秋君） 市長。

○市長（高橋邦芳君） これにつきましては、制度上ハードに対する支援がなかなかたとえオリンピックといえどもないというような状況が実はあります。幾つかの文部科学省系の補助金のちょっと選択もしながらその活用を図っていききたいなということと、あとは実はこれについてはやっぱり新潟県としてのポテンシャルを上げるための施設にもつながるのではなかろうかということで、次機会を捉えて知事のほうにも支援要請をお願いをしていきたいということを今考えているところであります。したがって、ほかの部分につきましては、そういう特定な財源を受けられる部分以外につきましては、過疎債を充当して実施をしていくというのが今の形であります。あとは、その中に少し考えています実現できるかどうかという部分の検証も含めてでありますけれども、建設費に対してその支援を受けられるような仕組み、ネーミングライツ的な部分を含めて今検討をしているところであります。

○議長（三田敏秋君） 尾形修平君。

○7番（尾形修平君） これは、先ほど生涯学習課長の説明ですと、この28ページにありますように、RCづくりの2階建てということで伺ったのですが、実際構造的には、私何でこんな質問するかというと、できてからああ、こんなつもりではなかったと皆さんが思わないようにあえて質問させてもらうのですが、2階づくりと書いてありますけれども、実際2階づくりにはならないわけですね。そのギャラリーの部分をいわゆる2階づくりというふうにおっしゃっていて、ホールとしては一つのホールというか空間になると私は認識したのですが、それでよろしいのでしょうか。

○議長（三田敏秋君） 生涯学習課長。

○生涯学習課長（田嶋雄洋君） 2階建てでございますが、2階部分には観覧席として椅子約250席くらいを固定席として設置するというところであります。管理棟の上の部分に固定席にというふう

考えております。

それから、先ほどお話をした走路の部分については、スケートボードの大会等が行われるときには、立ち見席としてそこにも大勢のお客さんが入れるというようなことは考えております。

○議長（三田敏秋君） 尾形修平君。

○7番（尾形修平君） 時間ないので、あれですけれども、できたイメージが例えばこの議場にすると後ろに観覧席があって、周りにギャラリーがあってというイメージでいいのですよね、簡単にいいですか、それで。

○議長（三田敏秋君） 生涯学習課長。

○生涯学習課長（田嶋雄洋君） そのとおりでございます。

○議長（三田敏秋君） 尾形修平君。

○7番（尾形修平君） あと、この竣工後の年間利用者数の見込み及び維持管理費に関してどのような見積もりをなさっているのか伺いたと思います。

○議長（三田敏秋君） 生涯学習課長。

○生涯学習課長（田嶋雄洋君） 今完成後の維持管理費、これについてはまだ検討に入っておりません。建物も、まだ詳細設計ができていない段階で、そちらのほうちょっとご勘弁いただきたいのですが、今のスケートパークの利用状況から勘案して、現在のスケートパークでは大体1月に200人近くの方が利用されているということなので、そのくらいの利用は最低でもとれる分だというふうに考えております。

○議長（三田敏秋君） 尾形修平君。

○7番（尾形修平君） 時間ないので、終わりますけれども〔質問時間終了のブザーあり〕これは一般市民の方が利用できる施設であればいいのですけれども、先ほど来の説明の中でスケートボード競技に限ったような施設になっていると私は受けとめたので、その辺この後まだ質問出るといいますけれども、答弁のほうよろしくお願ひしたいと思います。

以上で終わります。（拍手）

○議長（三田敏秋君） これで高志会の代表質問を終わります。

○議長（三田敏秋君） 次に、日本共産党の代表質問を許します。

14番、竹内喜代嗣君。

○14番（竹内喜代嗣君） それでは、市長の施政方針に対する日本共産党の代表質問を行わせていただきます。

最初に、市の契約で働く労働者の賃金を保障する公契約条例の制定について伺います。例に挙げさせていただくのは、野田市の公契約条例であります。野田市の公契約条例では、現場労働者の賃金が設計労務単価の時間当たり最低額100分の85と決めています。

1つ目、まずこの設計単価のことで、工事または工事または製造の請負発注は、国土交通省の公共工事設計労務単価で計算をしていますか、財政課長がいいか、お願いします。

○議長（三田敏秋君） 財政課長。

○財政課長（板垣喜美男君） 実際私どもで設計しているわけではありませんけれども、単価につきましては決められた県の単価等々に基づいて設計されております。

○議長（三田敏秋君） 竹内喜代嗣君。

○14番（竹内喜代嗣君） 野田市では、公契約条例が制定されておるわけでありますが、現場労働者の賃金が設計労務単価の時間当たり最低額を時間当たりで100分の85と決めています。実際に働く労働者の賃金の最低額を時間当たりで100分の85と決めています。高過ぎると思われませんか、市長に伺います。

○議長（三田敏秋君） 市長。

○市長（高橋邦芳君） 設計に組みます単価につきましては、それが必要だからというふうに組み込まれるものでありますので、その85%は低いのは当たり前でありまして、先ほど財政課長から申し上げましたとおり、設計上の人件費につきましては設計は100%で組む、これが普通の設計書だというふうに理解しております。

○議長（三田敏秋君） 竹内喜代嗣君。

○14番（竹内喜代嗣君） つまりいろんな管理費もあるわけでありまして、85に設定をしているということだと思います。

それで、この公契約条例では、こういうふううたっております。受注者等は、適用労働者に対し次に定める1時間当たりの賃金等の最低額以上の賃金等を支払わなければならないというふううたっております。そして次に、工事又は製造以外の請負の契約及び指定管理協定、これは指定管理の問題であります。野田市の一般職の職員の給与に関する条例別表1、2に定める額、国土交通省が国の建築保全業務を委託する際の費用の積算に用いるため、毎年度決定する建築保全業務労務単価、その他の公的機関が定める基準等並びに本市が、これは野田市です。既に締結した工事又は製造以外の請負の契約にかかわる労働者の賃金等を勘案して市長が別に定めるというふうになっています。今総務省では、働き方改革ということで同一労働、同一賃金ということを総務省も訴えているかと思えます。こうしたことから、今定例議会でも指定管理契約で問題が発生をして、訴訟に発展するのかなというところに来ておりますが、はっきりと公契約条例を制定をして、仮にこの野田市では4,000万円以上の請負契約についてとか、1,000万円以下とかいろいろうたっているわけでありまして、縛りをかけて仮に大企業が、大手の建設業が入ってきてもここで仕事をとって、そしてその下請に村上市の企業が請負って働くような場合にも、そこで実際に働く労働者の賃金が保障されると。先ほど積算単価の85%と言いましたけれども、保障されるというふうに行われれば、請負う業者の皆さん、建設業の皆さんも、そして実際に働く労働者の皆さんも安定した状況で働く

ことができるのではないかというふうに考えます。市長のお考えを伺います。

○議長（三田敏秋君） 市長。

○市長（高橋邦芳君） 当然各社事業に向かってみずからの力を、英知を結集しながら向かうわけがありますから、いろいろな工夫をするのだらうと思えますけれども、確かに私も請負者がその次の協力事業者を用意をしながら進めていくというのはよく承知をしているわけでありまして。その中で、適正なそういう価格帯でそういうものをしてくださいということは、当然市の発注事業でありますので、そういうところについてはしっかりと目を光らせていくつもりであります。

その中において、下げてもいいけれども、ここが限界だよとかという仕組みをあらかじめ設けることがいいのかどうかという部分はあるのかなというふうに今お話を聞いていて感じました。そのメリット、デメリットもしっかりと検証させていただきたいと思えますけれども、現時点で村上市でそれを導入するという今予定はないということでありまして。

○議長（三田敏秋君） 竹内喜代嗣君。

○14番（竹内喜代嗣君） きょう一連の議論を聞いていて特に思うのですが、山形県は裏面条例であります。公契約条例を持っています。おわかりの方大勢だと思いますが、山形県の積算単価、設計単価が20年前ははるかに、私が覚えているのは30年近く前ですけども、新潟県より安かったのです。ところが、今は同じになってしまったというふうに、実際に働いている労働者の賃金を調査をして積算単価を決めていっているわけですから、このままの状態が続けば、どんどん下がりが続けるというふうに言えるかと思えますし、ここで大きな工事で下請をする地元の建設会社や、あるいは指定管理契約で仕事をする会社の皆さんも、企業の皆さんもご苦労なさる、そういうことを指摘をして検討して下さることをお願いいたしまして、次に移ります。

マイナンバー制度についてであります。マイナンバーの制度は、国民にはほとんどメリットがない反面、個人情報の漏えいやなりすまし詐欺など数多くの問題が指摘をされています。そこでお聞きをします。確定申告書や各種手続で未記載でも受理をしますか、お聞きします。市長でもいいし、担当課の人でも。

○議長（三田敏秋君） 税務課長。

○税務課長（建部昌文君） 確定申告等には、法律によりましてマイナンバーが必要であります。必要性についてはお話ししますが、マイナンバーをお持ちでないという場合も受理いたします。

○議長（三田敏秋君） 竹内喜代嗣君。

○14番（竹内喜代嗣君） 従業員のマイナンバーを社長さんが預かれば、罰則付きの守秘義務が課せられるということは真実でしょうか。税務課長いいのか、お願いします。

○議長（三田敏秋君） 税務課長。

○税務課長（建部昌文君） 談合法によりまして、罰則あるかどうかというのは今私その知識をちょっと済みませんけれども、持ってございません。申しわけございません。

○議長（三田敏秋君） 竹内喜代嗣君。

○14番（竹内喜代嗣君） 罰則があるのです。

それで次に、市役所での取り扱いで、これら守秘義務、同じわけですが、きちんと管理されているのでしょうか、お伺いします。

○議長（三田敏秋君） 市長。

○市長（高橋邦芳君） 守秘義務があるので、しっかり管理されているのかと言われれば、当然そういう制度の中で事務を執行しておりますので、管理されております。

○議長（三田敏秋君） 竹内喜代嗣君。

○14番（竹内喜代嗣君） 次に、お伺いをいたします。

きょうの議論の論立ては、皆さんやっぱり少子高齢化、まずどんどん人口が減っていっている問題をどうするのかということで議論がされているように考えます。そこで、これは福祉課長に、あれは6月だったか調べてもらったわけではありますが、新潟県の制度で介護人材の確保に向けた支援で、新潟県のひとり親家庭等介護就業支援事業、これはIターン、Uターンのひとり親の方がふるさと新潟に、あるいは全くよその県から帰っていらっしゃる方に働く場所を、今人材が足りなくて困っている介護事業に就業してもらう。そのかわり、住むところやいろんな引っ越しの手当てまで含めて支援をしようというのが新潟県の制度で、去年たしか6月だったと思うのですが、こんないい制度があるのだから途中で始められないかということで県の福祉課にも電話したのですが、それはもう終わったというようなことだったのです。今回まだ県会も決まっていないうし、どうなのでしょう、福祉課長おわかり、データもらって上げたのかだったものですが、いかがでしょうか。

○議長（三田敏秋君） 福祉課長。

○福祉課長（加藤良成君） 確かにUターンでしたか、Iターンでひとり親の家庭がこの辺新潟県内に来るといような場合について、さまざまな優遇制度がありますよといようなことで承知しておりますが、その介護というのは、ちょっと私のあれ出ていたのですけれども。

○議長（三田敏秋君） 竹内喜代嗣君。

○14番（竹内喜代嗣君） これは、市長にあとはお伺いしないとだめだと思うのですが、きょう一連の議論に全くかみ合わないようなので、ことしの、つまりその同じ制度で新発田市と、それからもう一つ妙高市と、もう一つどこか取り組んだということなのですが、新発田市では37人も実績があったということなのです。介護に就業していただく、あるいはIターン、Uターンで子供さんを連れて大手を広げて受け入れる、この新潟県新発田市に帰ってきたという方が37人もいらっしまったということで、私どもの共産党の研修会でその話聞いて非常に感動したのです。いかがでしょうか、ちょっと研究していただくようなことお願いしたいのですが。

○議長（三田敏秋君） 市長。

○市長（高橋邦芳君） 今うちのほうは、いろんなその仕組みを全部活用しようといことでどんど

んやっていますので、今議員とお話しのありましたそのUIJターンということでありましたので、そうすると純粋な地元の方でない方も含めてストレートにどんと来る、そういう方々も含めてそれを介護資源として、そういう担い手としての受け入れ、それにしっかり支援をするというその制度があるのであれば、積極的に活用させていただきたいと思いますので、早速研究をさせていただきたいというふうに思っております。

○議長（三田敏秋君） 竹内喜代嗣君。

○14番（竹内喜代嗣君） それで、商工観光課長にお伺いしたいのですが、村上市の中小企業振興資金の件でございます。不況対策資金の運用について、セーフティーネット5号保証の借りかえについてでありました。これは、課長に相談いたしまして、社長さんと一緒をお願いをしたのでありますが、まさか課長補佐が出てくるとは思わなかったのですが、中小企業庁の融資の課長補佐さんが出ていらっしゃるしまして、最前線の方ですから、答えは簡単に言えば弾力的な運用というようなことで借りかえを認めて、銀行がオーケー出して、担当課もいいのではないかとということなのに、業種指定が違うというようなことだったのですが、最終的には何だかわけのわからないような、要するに言いづらいことですけれども、担当窓口が悪かったみたいなことを言われたのですけれども、そごがあったという表現をしていましたが、私としては銀行が認める、あるいは不況対策業種として指定されているようなものであれば、このセーフティーネット5号保証という借りかえの場合認める方向で検討をさらに今までもその方向で協力されているということは承知しているのですが、確認をしたいので、ご回答をお願いします。

○議長（三田敏秋君） 商工観光課長。

○商工観光課長（竹内和広君） 先般竹内議員も含めてお受けになった件は、何か解釈違いみたいな形でたしかけりをつけたのではないかとこのように思っておりますけれども、基本的には留保期間もしくは主として市町村長が認めるものとしましても、向こう側の法令の規制のほうが実は優先されているのが現実でございますので、そのような弾力的運用のほうの判断は、どうしても上級庁のほうの判断になるというふうに解釈しております。

○議長（三田敏秋君） 竹内喜代嗣君。

○14番（竹内喜代嗣君） 担当課長補佐に名刺をもらいましたので、困ったら本庁に電話してください。

それでは次に、5月に荒川の防災演習を行うということであります。私どもが国土交通省に要請交渉に参りましたら、国もこの防災演習については支援をするというお答えもいただきました。そこで、知らない方も大勢いらっしゃいますし、この羽越大水害を想定したような、羽越大水害に匹敵するような荒川の洪水を想定した防災演習だと思われるのですが、関連することについて確認をしていきたいと思えます。

1つ目、荒川の発電ダムは貯留機能はないので、流れ込む流量をそのまま流す。状況により全開

をすることでありました。担当課は認識していますか。

○議長（三田敏秋君） 総務課長。

○総務課長（佐藤憲昭君） 羽越河川国道事務所から聞いております。

○議長（三田敏秋君） 竹内喜代嗣君。

○14番（竹内喜代嗣君） 状況により全開というのは、発電ダムが崩壊をして多大な損害を防ぐためにゲートをフルオープンするときに流れるということだと考えられるわけですが、この流量については把握しているでしょうか。

○議長（三田敏秋君） 総務課長。

○総務課長（佐藤憲昭君） 大変申しわけございません。今資料をお持ちしておりません。

○議長（三田敏秋君） 竹内喜代嗣君。

○14番（竹内喜代嗣君） 荒川堤防は、羽越水害時流量の9割の流下能力で築堤されていることを認識していますか、課長お願いします。

○議長（三田敏秋君） 総務課長。

○総務課長（佐藤憲昭君） 9割か8割か、その辺のことは把握しておりませんが、今国のほうでは順次荒川の堤防については改修を行っているというふうに聞いております。

○議長（三田敏秋君） 竹内喜代嗣君。

○14番（竹内喜代嗣君） 問題は、荒川に流入する支川には樋門が設置されている箇所があります。荒川本川の水位が上昇しますと、これが閉じられます。つまり本川から流れ込んでくるわけですから、締め切ることなのですが、そういった場合に機能を発揮するのは、排水機設置されていないわけですから、排水ポンプ車になるわけですが、何年前でしたでしょうか、5年前だったか、避難準備というような指令が出されたときに、羽越工事事務所にあるポンプ車は鳥屋と荒島の樋門に配置をして排水作業を行って、2台しかないからどこにも行けないと。荒川本川の上流には関川村もあるわけですが、関川村も何力所も樋門があって、本川が水位上昇すれば閉じられるということになるのですが、関川が全村避難を勧告したときには、そういったことからなされたと思います。それで、この2台のポンプ車、鳥屋と荒島配置ということは認識していますでしょうか。

○議長（三田敏秋君） 荒川支所長。

○荒川支所長（小川 剛君） 羽越河川国道事務所管理で、あらかわゴルフ場下流の堤防上に車庫が建設され、それに排水ポンプ車が平成19年度からだったと思いますが、配置されています。

○議長（三田敏秋君） 竹内喜代嗣君。

○14番（竹内喜代嗣君） そこで提案したいのですが、この羽越水害を教訓に避難場所と避難経路について再検討をすべきではないかということなのですが、お考えを伺います。

○議長（三田敏秋君） 総務課長。

○総務課長（佐藤憲昭君） 今国では、浸水想定区域及びそういった意味での再検討を行っておりまして、近々公示する予定になってございます。その結果をもって、防災マップ及び避難の経路等については、当市においても再検討をしたいというふうに考えております。

○議長（三田敏秋君） 竹内喜代嗣君。

○14番（竹内喜代嗣君） 東芝の子会社のマテリアルのダム、東芝セラミックスのダムだったのですが、それがマテリアルという名前になりまして、さらに現在は外国企業の所有となったということなのですが、調べようもないので、どうですか、担当課としてはこの事実について把握していますでしょうか。

○議長（三田敏秋君） 総務課長。

○総務課長（佐藤憲昭君） 済みません、把握していません。

○議長（三田敏秋君） 竹内喜代嗣君。

○14番（竹内喜代嗣君） 私心配するのは、よく企業買収するところもありますし、名前は変わっていなくても、実は過半数を占める株主がどこかの国だったりなんてこともあり得るわけでありましてから〔質問終了時間10分前の予告ブザーあり〕非常に危惧をしています。

それで、これは市長にお願いなのですが、恐らく市長会でも話題にはなっているような気もするのですが、私ども荒川の防災対策からもこの水利権、それから防災の面からも外国に、林地を外国人が買い占めるなんて話もありましたけれども、それ以上に私は問題だと思っておりますが、これが事実であれば、国に機会を捉えて外国法人が水利権を所有するようなことをこれは規制するようなことが必要ではないかなと思っておりますが、規制するようなことを求めていく考えはないか伺います。

○議長（三田敏秋君） 市長。

○市長（高橋邦芳君） 水利権を含めて我が国における国民の安全、安心を守るのは、これは当然の責務であります。そこに対するリスクを要するに外圧をしっかりと排除していくという仕組みは、多分必要なのだろうというふうに今思っておりますけれども、ただ自由社会において、全てのものをそういう形で我が国の制度の中に取り込んで、その理屈づけで対応していくということになるかどうか、いろいろなこういう交渉事があるわけでありまして、その辺のところもよく研究をさせていただきたいと思っておりますけれども、いずれにしましてもその先にあるのはやはり荒川流域の市民である我が村上市民の安全、安心また水系に隣接する自治体の皆様方の住民の皆さんの安全、安心、これがまずもって第1番に優先されるということは、議員と同じ意識だというふうに私は思っております。

○議長（三田敏秋君） 竹内喜代嗣君。

○14番（竹内喜代嗣君） それで、ちょっと順番おかしくなりましたがけれども、私ども共産党新潟県会が主催をして対政府交渉を行ったのですが、そのときに財務省に対して上越市の議員団の方が、これは上越市も行っているということなのですが、神奈川県に匹敵するような面積を持つこの村上

市であります。上越市が交付税の一本化にされて減らされているわけですが、これを復活せよということで当局にお願いをしているということがわかりました。いや、個別にお願いしたらということも聞いたので、これはやっぱり上越よりも村上のほうが過疎が進んで、こんなにきょうの議論聞いていてもお金があるのかどうかなんて議論になっているのに、これはお願いはすべきだろうと考えるのですが、財政課長こういった話というのは初めてでしょうか。結論は市長ですが、お願いします。

○議長（三田敏秋君） 財政課長。

○財政課長（板垣喜美男君） 今ご指摘の件は、私は承知してなくて初めて聞く話であります。

○議長（三田敏秋君） 竹内喜代嗣君。

○14番（竹内喜代嗣君） 市長にもお願いするわけですが、もうちょっと私詳しく調べてきますので、その財務省にお願いをするようなことが可能であれば市長考えたら、もうとにかくこんな広大な面積を持つところで、支所の充実も含めて見直していくということをや請すべきだと考えますが、いかがでしょうか。

○議長（三田敏秋君） 市長。

○市長（高橋邦芳君） ちょっと確認はさせていただきますけれども、それこそ合併を推進するという大きな仕組みの中で今我が国は今日まで至っているわけでありまして。その中で、交付税に係る部分については、当然国において地方の平準化を図るため、国土を均衡に発展させるためにという大命題があるわけでありまして、それがまさに今議員がおっしゃる部分についてそっちのほうが有効だということになれば、国も当然そういう判断をされるのだらうと思います。今は、現状そういう形になっていないということ。ただ、上越市さんのほうでどういうお取り組みをされているのかは、私も再度確認をさせていただきたいと思っております。

いずれにしても、基礎自治体一つ一つがしっかりとその維持、継続し〔質問終了時間5分前の予告ブザーあり〕未来に向かって持続できる、こういうことの仕組みをつくるということについては、私ももっとも、私もそうだというふうに思っております。

○議長（三田敏秋君） 竹内喜代嗣君。

○14番（竹内喜代嗣君） 最後に、米山知事が柏崎刈羽の原発の再稼働について3つの検証ができなければ、再稼働の議論はできないという姿勢をどう評価されていますか。避難してくるのがこの村上ということでありますので……

○議長（三田敏秋君） 竹内議員、それは範囲でない、代表質問。

○14番（竹内喜代嗣君） では、終わります。

○議長（三田敏秋君） これで日本共産党の代表質問を終わります。

午後3時10分まで休憩といたします。

午後 2時58分 休 憩

午後 3時10分 開 議

○議長（三田敏秋君） 休憩前に引き続き会議を再開いたします。

○議長（三田敏秋君） 最後に、市政クラブの代表質問を許します。

12番、小杉和也君。（拍手）

○12番（小杉和也君） 市政クラブの小杉和也でございます。市政クラブを代表しまして質問させていただきます。ことしの代表質問最後でございますので、よろしくお願いたします。

大型プロジェクトは、結構皆さんからいろいろ出ていますので、そのほかのことを中心に質問させていただきたい思います。私は、村上市の施政方針の中からいろいろと伺っていきたいと思います。まず、いきいき元気な笑顔輝く、支え合いのまちづくりからですが、こちらのほうに医師確保対策として中高校生を対象とした医師体験見学会の実施等でございますけれども、平成28年の7月26日、8月17日、8月18日に村上総合病院で中学生55名が参加して一次救命処置体験、病院施設の見学、医師との交流会を新潟県、これ村上地域振興局の主催で行いました。同じく、県の主催で医療系の大学等への進学を希望している高校生は、平成28年7月28日に坂町病院で16名参加、8月22日には村上総合病院で49名参加、8月24日には村上総合病院で39名参加して病院内見学、医療体験演習、病院スタッフとの交流を行いました。このような県の取り組みを多分分析されて、これ新規事業ですので、新規でこういった事業を行うことを決めたと思うのですが、この件についてはどんなでしょうか。

○議長（三田敏秋君） 市長。

○市長（高橋邦芳君） これまで実は就任後、いろんな形でこの下越圏域における医療の資源としてのあり方というのについて向き合ってきました。昨年なのでございますけれども、村上総合病院の林院長がそういうふうなお取り組みを現場でされていて、中学校の子供たちがその研修終わった後に僕絶対、私絶対医者になるというふうな発言をする子がいて本当に驚いたということで、今回今議員ご紹介ありましたとおり、1回の研修では賄い切れずに複数回になったというふうにお話をされておりました。

ですから、そんなところを踏まえて、まさに医療資源としてのドクターの数が足りないというのが我が新潟県における最大のウイークポイントだと思いますので、そのところをどういうふうに手当てをしていくのかということをも具体的に制度設計した結果、医療従事者を目指すため、ドクターを目指すための奨学金制度というところに行き着いたわけでありまして、その部分をしっかり小学校、中学校の世代からの学習に意識づけができるような仕組みとしての取り組みとして最も重要だなというふうに私は捉えているところであります。

○議長（三田敏秋君） 小杉和也君。

○12番（小杉和也君） それを受けまして実際どのような取り組みをされるのか、市長わかりますか。担当課でしょうか、お願いします。

○議長（三田敏秋君） 保健医療課長。

○保健医療課長（菅原順子君） 平成29年度ですが、やはり夏休みを利用して、中学生と高校生に対して実際に村上総合病院で今年度やりましたような初期救急救命とか、実際の医療現場の体験ということと、あと今年度既にそれをやった方たちに対して、もう一歩キャリアアップしたような内容ということで、新潟大学に実際に行って簡単な実習をさせていただくという、そういう内容で考えております。

○議長（三田敏秋君） 小杉和也君。

○12番（小杉和也君） まさにそのキャリア教育の最たるものかなと思います。そういった刺激であったりとか、さらにことし行った子たちがさらなるステップアップの部分も今組んでいますので、そういった意味ではぜひこれが有効に働けばいいなと思っております。

あとまた検証していただいて、できれば平成30年度以降も続けていただければなと思っておりますので、よろしく願いいたします。

先ほども、村上市の医学生修学資金貸与制度の創設に向けて取り組むというのがありました。これは、創設に向けてということですので、はっきりとは何人というのはまだ決まっていないというふうに先ほど言われていましたけれども、私平成25年の第3回定例会で、医師を目指している生徒へ新潟県では医師養成修学資金貸与制度の地域枠というものがある、月15万円であると。村上市でも、医学部枠を設けたらどうかと提案したことがございます。当時の市長は、村上市には市立病院がないから難しい問題だけれども、検討していくというようなことを答弁されていまして、こういった提案がやっと実を結んできたかなと思っております。やっと動き出したかなという感じがございます。

茨城県の神栖市では、こういった制度が既にある、見ていましたら入学の一時金、神栖市は120万円なのです。月額が20万円。卒業後2年以内に医師免許を取得、臨床研修終了後、市内医療機関に貸与期間勤務すれば返還は免除の規定がございます。愛知県の田原市では、こちらも一時金100万円、月額30万円か25万円を選べると。臨床研修終了後、市内医療機関に貸与期間勤務すれば、やはり返還が免除されるという制度がございます。一番見ていたのが一時金というのがすごくクローズアップされているのです。ぜひともそういったことも参考にしながらちょっと取り組んでいただければなと思うのですけれども、市長いかがですか。

○議長（三田敏秋君） 市長。

○市長（高橋邦芳君） 一時金というものの意味合いがどういうものなのかというのは、少し先進事例を調査させていただきたいと思っておりますけれども、この制度設計に当たっては、既に取り組みをされているところのものを随分と調査をさせていただいております。その中でターゲットにしておる

のが入学金、授業料、それと月の生活費です。いろんな部分があるので、どこをどういう形で手当てをしていくのか。先ほどいただいたご質問のとおり、国立と私立でも全然この経費が違うわけがありますので、それを今しっかりと見きわめながら検証を加えて制度設計をしているというところでもあります。

○議長（三田敏秋君） 小杉和也君。

○12番（小杉和也君） 先ほどの医療体験見学会を体験したような子供たちが、ぜひこういった制度を利用しながら医師を目指してほしいと。連携できると思うのです。そうやってリンクしてぜひとも進めていただきたい。いろいろと使い勝手のいいように研究していただきたいと思います。よろしくをお願いします。

それから、子育て環境の充実というのがございますけれども、いろいろと保育園の統合とかそういったもの、ハードな部分もあると思うのですけれども、やはりマンパワーも必要なのだろうなど。先ほども出ましたけれども、市民厚生常任委員会では、閉会中の調査でいろいろと行ったところ、やはりマンパワーが不足しているかなというような感じがありました。市でも、これ整備計画に伴って有資格者の掘り起こしなどに取り組むようなのですけれども、東京都はかなりの優遇策を計画して、新規の卒業生にもアプローチしているのです。学校で学んだ子たち、すごく夢を持って飛び込んでくるような子たちにも確保に取り組んでいるのですけれども、村上市の場合も新規の卒業生というのでしょうか、そういった人たちへのアプローチを含めてどんなふうを考えておられますでしょうか。

○議長（三田敏秋君） 市長。

○市長（高橋邦芳君） 要するに、就活で村上市を選択をしていただきたいというふうな取り組みができないかというような趣旨のご質問だと思うのでありますけれども、やはりぜひ村上市に来てねというところのプロモーションは、しっかりとしていきたいなということを実は考えております。まだ机上の議論の中ではありますけれども、幾つかのそういうアプローチとして、例えばCMでありますとか、実際にその各学校へ出向いて行って村上市のPRをしていくとかいうふうな形を含めて、実際に確保策を図っていきたいということ。

それと、子育ての部分でのご質問でありますので、加えて申し上げますと、子育て分野における最前線というのは、なかなかこの資格要件があるものが必要なわけありますので、そのところをしっかりと確保するということが大切だというふうに思っております。また加えて、職員の採用枠というのは、残念ながら限られていくわけありますから、それを補完する意味でのいろいろな非常勤であったり、臨時である、その職についてもしっかりとその待遇、処遇を位置づけながら、これからも確保に向けて取り組みを進めたいというふうに思っております。

○議長（三田敏秋君） 小杉和也君。

○12番（小杉和也君） 賃金が高いところは待機児童が少ないというのは、全国の統計もあるようで

すので、その辺の部分も含めながらいろいろとアプローチしていただきたいと思います。

去年の12月7日の新潟日報さんの記事で、こちら燕市の吉田福祉会というところなのですがけれども、燕市勤務が条件で、月3万円の無利子の奨学金を創設しているのです。これは、市でなくて福祉会というところなのですがけれども、自分のところで働く場合は、返還をしなくてもいいと。返還が免除されるというような制度なのですがけれども、燕で何で人材不足かなと思ったら、新潟とか長岡の学校を出ても地元に戻ってこない。一つのきっかけではありますので、こういったこともちょっと頭に置きながら、トータルで保育士の確保という部分を考えていただければと思います。こういった保育士枠の加算というのでしょうか、そういったこともある程度先行事例がありますので、市長いかがですか。

○議長（三田敏秋君） 市長。

○市長（高橋邦芳君） 今年度、平成28年度におきましても、経験枠ということで村上市の保育園に臨時職員として働いていた方々を職員への道へ、職員となる道を開いたり、臨時職員の賃金体系については、他の職種までには手が回らなかったわけでありましてけれども、特に保育士の関係については賃金をバックしていくというふうなところ、少なからず臨時の保育士の確保また今後の保育行政に向かうマンパワーの確保については、その道筋が見えてきているのかなという感触は得ていますので、そんなところも含めてしっかりと対応していきたいというふうには思っております。

しかしながら、また財源が伴う話でありますので、そここのところもしっかり今後維持できる制度設計というところも見据えながらやっていきたいというふうには思っております。

○議長（三田敏秋君） 小杉和也君。

○12番（小杉和也君） 次に、障がい者福祉の推進というふうここに記載されていますけれども、こちらの施策のほうに、障がい福祉サービスの一層の充実を図るとありまして、平成29年度は障がい児の居場所サポートに取り組むというふうに出ています。具体的にどのような支援を考えているのか、福祉課長お願いいたします。

○議長（三田敏秋君） 福祉課長。

○福祉課長（加藤良成君） 具体的にといいますと、これの実際に居場所を行うのは民間の事業者でありまして、こういった障がい児の、ここにも書いてありますように放課後デイサービスが始まるというようなことで、相談というのですか、そういったようなのが来たり、あるいはこれをサービスを実際に利用する場合には市役所にその申し込みを来て、それからケアプランというのですか、計画を立てて、それから実際のサービスの利用になるというようなこととなりますので、我々としてはいつそういった、利用したいという相談がありましたらこういったものがありますよと。実際にこの事業者の方ですが、学校とか、それから保育所関係とか、そういったところにも4月から始まりますよというようなことで、PRをしているやに、保育園につきましては実際に来て延長型とか、そういったところに今こういったの始まりますよというようなことでPRをしておりまして、

そういった我々場所の提供はしておりますし、学校については、何かこういった説明をしているやに聞いております。

○議長（三田敏秋君） 小杉和也君。

○12番（小杉和也君） これ見ますと、3,000万円からのかなりのボリュームですよ。この辺はどうなのですか。

○議長（三田敏秋君） 福祉課長。

○福祉課長（加藤良成君） これは、先ほど言いましたようにサービスを利用した際の給付費になります。

早い話が介護がありますけれども、介護の給付と同じような関係で、実際に今そのサービスを利用した際の給付費ということになります。

○議長（三田敏秋君） 小杉和也君。

○12番（小杉和也君） 放課後等デイサービスというのありましたので、私ちょっと調べてみましたら、こちらのほうに自立した日常生活を営むために必要な訓練をする内容だというふうに記載がございました。それで、ちょっと学童保育を利用しづらい子供たちだったり利用すると、2012年に制度化されたというふうに調べました。そうしたら、放課後とデイサービスの関するホームページをどんなものかなと見ていきましたら、割に何か商売のほうに先に立っているようなものもあったのです。これは有効な、商売というとちょっと言葉語弊ありますけれども、そういった利益優先というのでしょうか、利益優先の事業者による報酬の不正受給や、テレビを見せるだけでほとんどケアしないというような事例報告もありまして、厚生労働省のほうでは厳格化して、障がい児の支援経験を求めるいった方向に持っていくと新聞で報道されておりました。特にこれこういったことは、障がい児の居場所をサポートというのは新規の事業でございますので、しっかりと実態把握をすべきだと思うのですが、市長いかがでしょうか。

○議長（三田敏秋君） 市長。

○市長（高橋邦芳君） まさに、今その生き方を含めてしっかりとそういう部分に目を向けていかなければならないという時代であるというふうに思っております。

しかしながら、なかなか現場の子供たちを含めたその状態が多種多様に変化をしております。それにしっかりと対応していく、またそのそういう事案を抱えている皆様方をトータルで家族として、世帯として支えていくという仕組みからも、こういうふうなサービスはしっかりと取り組んでいかなければならないなと思っております。あとは、その今議員がご指摘の部分のようなところをよくメディアにも載るわけでありましてけれども、それがあってはやっぱりだめなのだと思います。ですから、そのところは、市が取り組む施策でありますので、しっかりと見据えてやっていきたいというふうに考えております。

○議長（三田敏秋君） 小杉和也君。

○12番（小杉和也君） 12月の定例会で第2次総合計画の部分ですけれども、私質問させていただきましたら、精神発達や情緒行動に問題のある子供たちが多くなっている現状があるのだと。障がいがある児童の早期発見や療育体制はしっかりと積極的に取り組むと答弁をいただきました。この計画がしっかりとしたもので進んでいくのだろうなというような感触を得たのですけれども、自立した生活を営むために本当に必要な訓練であったり、あとそのまま手当てしてやるのではなくて、リハビリ等もありますので、リハビリ等で子供たちの機能を改善していくのだというようなところまでやはりぜひ市のほうで求めていただきたい。まず、国のほうも、その資格者がこういう人が必要なのですよと整備はしてくると思うのですけれども、それに先駆けて必要な有資格者のいるスタッフ体制とかをしっかりと指導、支援していただきたいなと思うのですけれども、いかがですか。

○議長（三田敏秋君） 市長。

○市長（高橋邦芳君） 実は、議員ご指摘のとおり早期発見をして、しっかりと手当てをしていくということが大切です、これは。意外とそういうことによって改善をしたり、回復をしたりするというケースもあるものですから、それはことばとこころの相談室で実績が上げられているとおりであります。ですから、まさに成功するそういうスキルがあるわけでありますから、それをきちんとこの制度に当てはめていくと。こういうふうな運用をしていくということだろうというふうに思っています。

先日民間のそういう活動されているNPOの皆さん、またボランティアの皆さんとお話をする機会がありました。その中で、やはり多種多様であります、状況は。ですから、そのところをしっかりと行政が支援をしながら、既にあるそういういろいろな関係団体の皆さん方とも連携をしながら、最終的にはこういうところの制度も活用するという、いろいろ選択肢をやっぱり提供していくということが大切だというふうに思っております。キャパ的には少ないのかもしれませんが、しっかりとそこは支えていくということで取り組みを進めたいというふうに思っております。

○議長（三田敏秋君） 小杉和也君。

○12番（小杉和也君） ぜひともよろしく願いいたします。

それで、ちょっと飛びまして、産業が創る地域の誇り、活力みなぎる賑わいのまちづくりというところから質問させていただきたいと思います。7ページに、特産品や観光のさらなるPRに努めるとありますけれども、商工観光課長に伺いますけれども、今までの取り組みで特に効果があったと思われるようなイベントがありましたらお答えください。

○議長（三田敏秋君） 商工観光課長。

○商工観光課長（竹内和広君） 食を生かした総合戦略の中で実施させていただきました村上カフェは、確実にパブリシティー効果はあったというふうに認識はしております。今後も、同じように食を生かしたものを展開していきますが、新たな道筋はこれから、もう少し研究が要るかなという認識はございます。

○議長（三田敏秋君） 小杉和也君。

○12番（小杉和也君） 市長が常々村上がポテンシャルが高いと。物産展におきまして、ポテンシャルがすごく高いのだろうなと思っております。外に出ても人気がありますし、あと村上市単独でもできるくらいさまざまな業種がございます。行政が支援して取り組むというふうになると、対外的に信用性も増しますし、あと補助とかが出ていると、何年かで打ち切りだよというような形のものが多いです。ひとり立ちしなさいという方向が出てきます。

前に県のちょっと支援をもらっていたある観光のイベントは、その補助がなくなる前に徐々にソフトラディングして自立させるために、しっかりと引き継ぎを指導してくれたのです。ぜひともその辺、市のほうもやっていただきたい。新しく取り組むものもありますし、過去に実績のあったものもあります。両方をうまくまず組み合わせて、村上市の特産品、観光をさらにPRしていただきたいと思うのですが、市長いかがですか。

○議長（三田敏秋君） 市長。

○市長（高橋邦芳君） ある程度の制度設計の中で、期限を区切りながらここまでで自立をしてください。要するに軌道に乗せてくださいというのはある意味あるのだろうというふうに思います。それがなければ、だらだら、だらだらという仕組みにもなっていく恐れもあると思いますので、やはりみんなそれぞれの立場で緊張感を持ちながらやっていくというのは絶対必要だと思います。

ただ、それにこだわらずに、もう少し時間をかければきっと花開くというようなイメージのものとかも、多分あるのだろうと思いますので、その辺は臨機応変にさせていただきたいというふうに思っております。観光のみならず、いろんな行政サービスの分野にそういうものがあります。

あと、行政の役割と民間の役割といったことを考えたときに、行政は意外と利益を上げるというのですか〔質問終了時間10分前の予告ブザーあり〕そういうのは苦手です。基本的にこの利益を追求するような、そういう仕組みで動く構造体になっていないものですから、そこのところはきちんと民間の皆さんでありますとか、コンサルティングをしていただいている、そういうコーディネートをしてくれる方にどんどん、どんどん意見を言っていただきながら、あとは行政としての役割をしっかりとそこに入れ込んでいくということで、結果その先にある成功というものはみんなの成功につながる、行政にとっても成功だと思いますし、民間の皆さんにとっても、市民にとっての成功にも結果的にはつながっていくものだというふうに思っておりますので、これからしっかりその考え方で取り組みを進めます。

○議長（三田敏秋君） 小杉和也君。

○12番（小杉和也君） 人口が減少してきますので、交流人口をふやすというのは、やはりこういったことが一番重要なことなのだろうなと思いますので、その辺のところ、突き放すのではなくて、いろいろ複合的に戦略を練っていただきたいと、そんなふうに思っております。

次に、伝統と文化を育む、すこやか郷育のまちづくりからです。ここの中に、教育環境の整備を

進めていくというのがございます。先ほども出ましたけれども、小中学校のトイレの改修、生活様式を踏まえたものですし、避難所となったときに大変重要だというようなことがやはりあると思います。お年寄りとか障がい者が利用しやすくなるというのが当然取り組むべきことなのですから、拡充ということで小中学校施設（トイレ）の改修というものが出ています。具体的にはどういった学校を整備するのか、学校教育課長お答えください。

○議長（三田敏秋君） 学校教育課長。

○学校教育課長（遠山昭一君） 先ほども答弁させていただきましたけれども、具体的につきましては、体育館を初めに主体的に行いたいと思っております。避難所に指定されておりますところになります。どこの学校というところにつきましては、これから検討をさせていただきたいと思っております。

○議長（三田敏秋君） 小杉和也君。

○12番（小杉和也君） そのときの整備基準というのはどんなことですか。

○議長（三田敏秋君） 学校教育課長。

○学校教育課長（遠山昭一君） できれば、ほかの工事等との絡みで一緒にやれるところはやりたいと思っておりますけれども、具体的にはこの旧市内のほうはまだ充実されていないということで、そちらのほうが主体になるかと思っております。

○議長（三田敏秋君） 小杉和也君。

○12番（小杉和也君） 教育長の見解を伺います。

○議長（三田敏秋君） 教育長。

○教育長（遠藤友春君） 小中学校のバランス、それから校舎のトイレ、体育館のトイレ、そのバランスの現状がありますので、今課長が述べたように、やはりバランスを考えながらも小中どの学校を優先したらいいのかを検討して進めてまいります。

○議長（三田敏秋君） 小杉和也君。

○12番（小杉和也君） こちらの同じページで8ページのところに、キャリア教育を小学校から一貫的に進めると。総合計画のときにもお伺いいたしましたけれども、具体的にこういう文言で記載されましたので、そういうののイメージ教育長にお伺いしたいと思います。

○議長（三田敏秋君） 教育長。

○教育長（遠藤友春君） 小学校では生活科とか、それから総合的な学習でふるさとへの愛着を育むような活動を教育計画に位置づけて、体験活動を中心に実施させたいと考えております。

それから、中学校においては、キャリア・スタート・ウィーク事業を計画しておりますので、それを一層充実させていきたいと考えております。

○議長（三田敏秋君） 小杉和也君。

○12番（小杉和也君） そういった取り組みがせっかくこうやって一貫的にと書いてありますので、

ぜひともつながっていくようにというような意味合いをお願いしたいのです。

○議長（三田敏秋君） 教育長。

○教育長（遠藤友春君） 県のほうでは、小学校でも職場体験活動を実施しろとか、それから家庭の親の働く姿を子供に見せる、そういうのもキャリア教育だよということを言っておりますので、小学校においても中学校と含めて、できれば職場体験なども含めてやるのがそういう一貫的なキャリア教育につながるのではないかと考えております。

○議長（三田敏秋君） 小杉和也君。

○12番（小杉和也君） 体験も〔質問終了時間5分前の予告ブザーあり〕そうなのですからけれども、それこそ子供たちがその自分の将来を見据えて、自分の夢の実現、自分がなりたいものとか、そういうようなイメージを描けるように、職場体験悪いと言っているわけではないです、小学校です。ですので、中学校にうまくつながっていくような取り組みを、ことし、平成29年度からだと思っております、小学校という位置づけを出してきたのは、いろいろやっていたのですけれども、中学校でいろいろなキャリア教育というのが進んでいましたけれども、小学校という記載は私多分文字になったのは見たことがなかったので、ぜひともそのつながりをうまくしていただきたいなと思っております。

あと、中学生の家庭学習の習慣化を促すため、モデル校での放課後学習塾を開設すると。これを書き込んだ理由を教育長に伺います。

○議長（三田敏秋君） 教育長。

○教育長（遠藤友春君） 当市の実態として中学生の、特に3年生ですけれども、家庭学習時間が小学生よりも短い、そのようなこともありますし、やはり中学校の学力向上面でも心配がありますので、家庭学習の習慣化、それから学力の向上を目指して位置づけております。

○議長（三田敏秋君） 小杉和也君。

○12番（小杉和也君） その上段に、学校運営協議会というのがございます。既に設置されているところもございますが、設置に向け検討を進めるとありますけれども、これはどういうことでしょうか、教育長。

○議長（三田敏秋君） 教育長。

○教育長（遠藤友春君） 今後5年間の中で、全ての小中学校に設置したいと考えております。そのためのスケジュールを平成29年度検討して、平成30年度からモデル校ではありませんけれども、順次検討していきます。

○議長（三田敏秋君） 小杉和也君。

○12番（小杉和也君） その下のところに、村上まつりのしゃぎり行事というのがありまして、国重要無形民俗文化財の指定に向けて準備を進めてまいるというのがございますけれども、この準備を進めてまいるというのの考え方、イメージ、どんなふうに進めるのかを生涯学習課長に伺います。

○議長（三田敏秋君） 生涯学習課長。

○生涯学習課長（田嶋雄洋君） 来月にこの調査報告書の報告会を予定しております、その後運営協議会を設置させていただきまして、19町内の代表の方々にお集まりいただきながら全国山、鉾、山車の団体のほうに加入、今もしているわけですが、そういったところを通して、村上のしゃぎり行事が無形民俗文化財に国の指定を受けることができるように努力してまいりたいと考えております。

○議長（三田敏秋君） 小杉和也君。

○12番（小杉和也君） この10ページにも及ぶ施政方針、市長はもっとボリュームを書きたかったのではないかと思うのですが、凝縮したものがこの10ページの今年度の施政方針だと思います。この施政方針をつくるに当たっての思いとか、あとこの方針で力を入れていくよとか、いろんな思いがあると思うのですが、それを最後にお聞きしたいと思います。

○議長（三田敏秋君） 市長。

○市長（高橋邦芳君） 非常に行政の担う分野は広範囲であります。その中に、大多数の市民にかかわる部分があれば、特定の方々にはそのサービスが行き届かないもの、また必要とされないものというのがあります。そこを押しなべてトータルでしっかりと私が目指すところの今回第2次の総合計画に掲げました笑顔、どこにでも笑顔をつくり上げるためには、非常にそのアプローチの仕方もそうでありますし、コストもそうでありますし、いろんなものが異なるわけでありまして。それをこの中にその広範囲な分野を一つ一つ丁寧に入れ込みながら、その集約形として今回まとめさせていただいたというふうに思っております。

それと、たびたび申し上げますとおり、やはりこういう物事を一つ一つ進めていくのには時間、またその時間においても長さがそれぞれ異なります。もしくは、歴史として捉えていかなければならない部分もあるのかもしれませんが、その中の一つがやはり今回評価をいただいている歴史的風致維持向上計画での認定とか、このまちそのものがしっかりとそういう位置づけをいただけるというようなことにつながります。ですから、その時々生活する我々は、その生活を位置づけるための取り組みをその時間過ごすのだというしっかりと意識のもとに日々を過ごすことが必要だ。それが結果的にはこの予算を通じて市民の豊かな生活につながっていくのだらうということ〔質問時間終了のブザーあり〕これを信じながら、これからしっかりと取り組みを進めたいと思っております。

○12番（小杉和也君） 終わります。（拍手）

○議長（三田敏秋君） これで市政クラブの代表質問を終わります。

以上で代表質問を終了します。

ただいま代表質問の対象となりました議第9号から議第19号までの11議案については、平成29年度一般会計予算付託表、平成29年度特別会計予算付託表のとおり、会議規則の規定によって一般会計予算・決算審査特別委員会並びに各所管常任委員会に付託をいたします。

○議長（三田敏秋君） 以上で本日の日程は全て終了いたしました。

本日はこれで散会いたします。

なお、24日から本会議を開き、一般質問を行いますので、定刻までにご参集ください。

長時間大変ご苦労さまでございました。

午後 3時44分 散 会